

## Ⅱ－２ 島しょ部の被害の様相

### 1 地震動予測結果

#### (1) 南海トラフ巨大地震の地震動分布

島しょ部における南海トラフ巨大地震の地震動分布については、東側ケースで震度5強～震度3（大島～青ヶ島）となっている。経験的手法を重ねた場合も、震度5強～震度3（大島～青ヶ島）となっている。小笠原諸島では、経験的手法で計算し、震度1以下となっている。島しょ部の一部で震度6弱が想定されるが、ほとんどの地域（島しょ部面積の99%）で震度5強以下となっている。

図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケースの震度分布図  
(大島～御蔵島)

図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケース+経験的手法の震度分布図  
(大島～御蔵島)

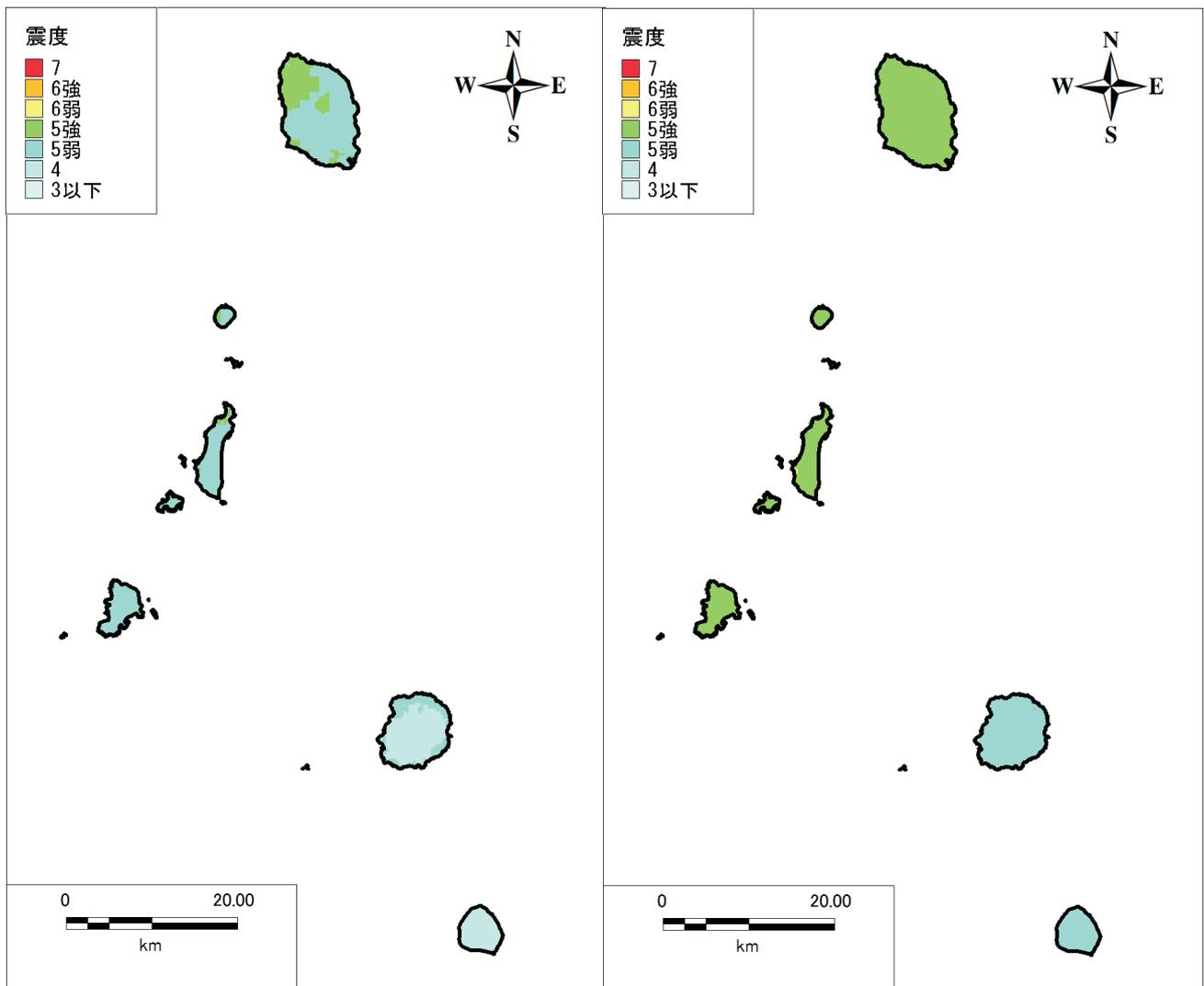


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケースの震度分布図  
(八丈島～青ヶ島)

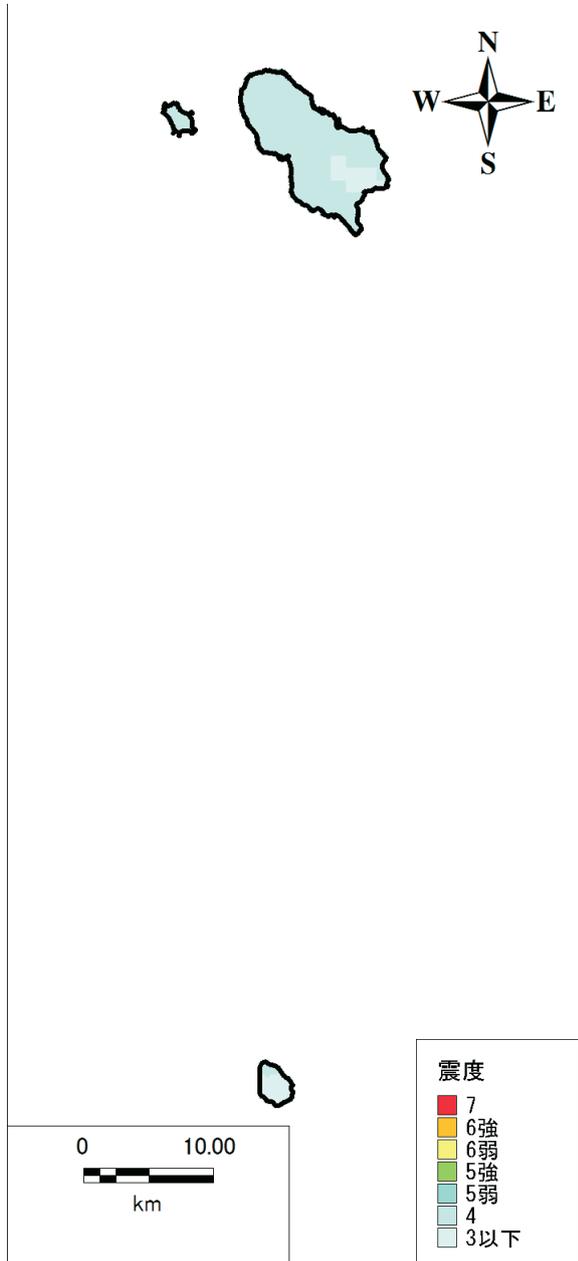


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケース+経験的手法の震度分布図  
(八丈島～青ヶ島)

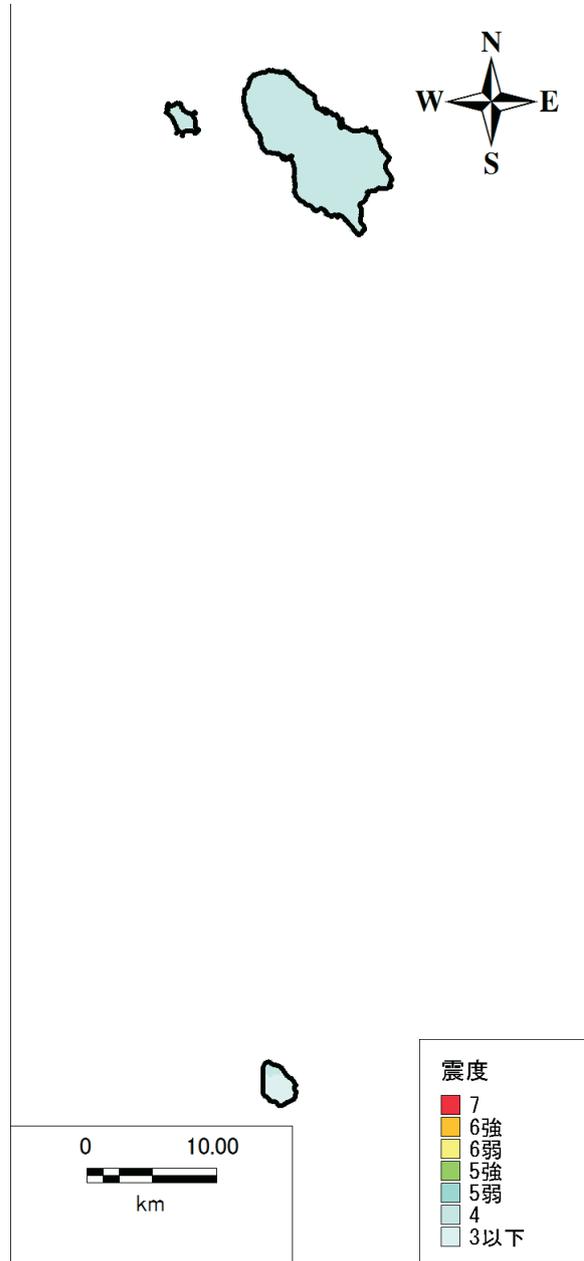
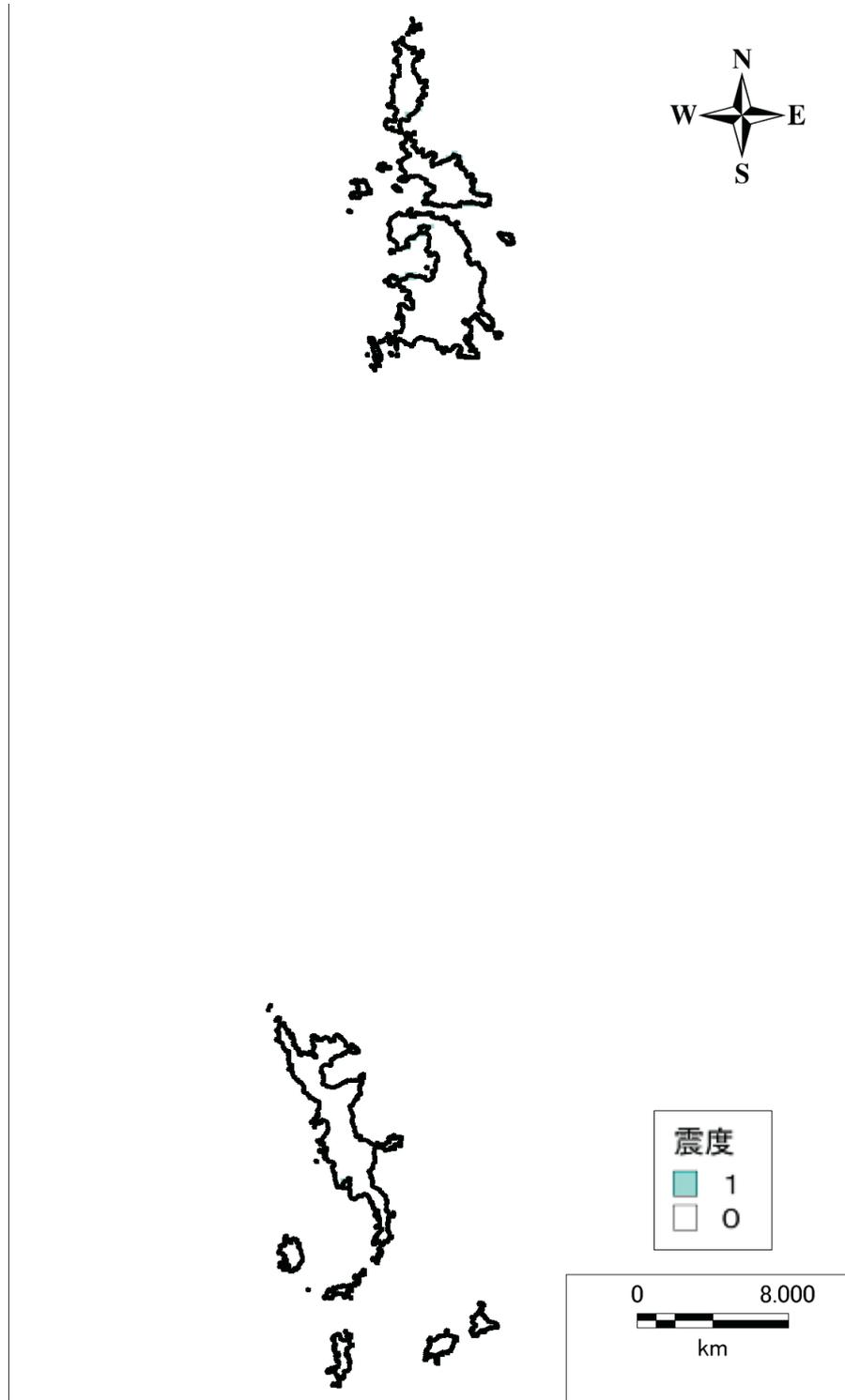


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)経験的手法の震度分布図  
(父島～母島)



## 2 液状化危険度予測結果

---

### (1) 南海トラフ巨大地震の液状化危険度分布

島しょ部は、全て火山島であり、地形区分のほとんどは、「火山地」または「火山山麓地」となっている。この地形区分は、液状化する対象となるものではなく、島しょ部は液状化に対しては安全であると考えられる。しかしながら、元の地盤を人工的に埋め立て盛土した地域は液状化する対象となる。

島しょ部の液状化危険度については、大島～青ヶ島では、液状化する可能性は低く、液状化したとしても非常に地域が限定的である。小笠原諸島の父島～母島では、推定震度分布が震度1以下であり、液状化する可能性はない。

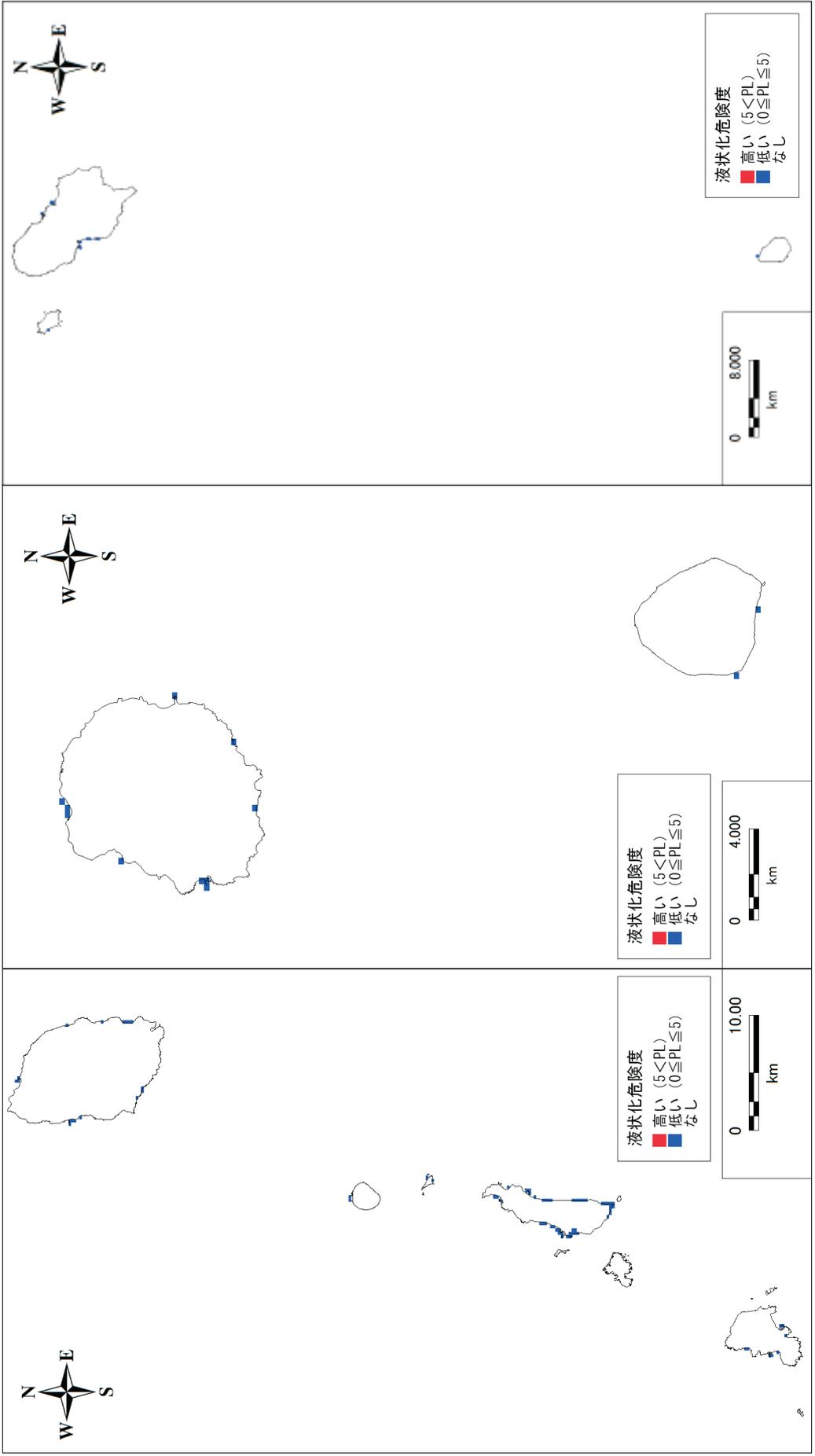


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)東側ケースの液状化危険度分布図(左図:大島~神津島 中図:三宅島~御蔵島 右図:八丈島~青ヶ島)

### 3 急傾斜地等の斜面崩壊危険度予測結果

#### (1) 南海トラフ巨大地震の斜面崩壊危険度分布

斜面崩壊危険度の検討は、急傾斜地崩壊危険箇所のデータ及び山腹崩壊危険地区のデータを使用して行っている。島しょ部の地盤は、火山地、火山山麓地であり、元々降雨などによる斜面災害に弱い特性を持っている。地震による災害についても、同じ火山性地盤である伊豆半島において、1974年伊豆半島沖地震、1978年伊豆大島近海地震で多くの斜面災害が発生している。今回の検討では、予測震度が震度5強とやや大きくなる利島及び新島において、特に注意を要すると考えられる。

図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケースの斜面崩壊危険度分布  
(大島～神津島)

図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケース+経験的手法の斜面崩壊危険度分布  
(大島～神津島)

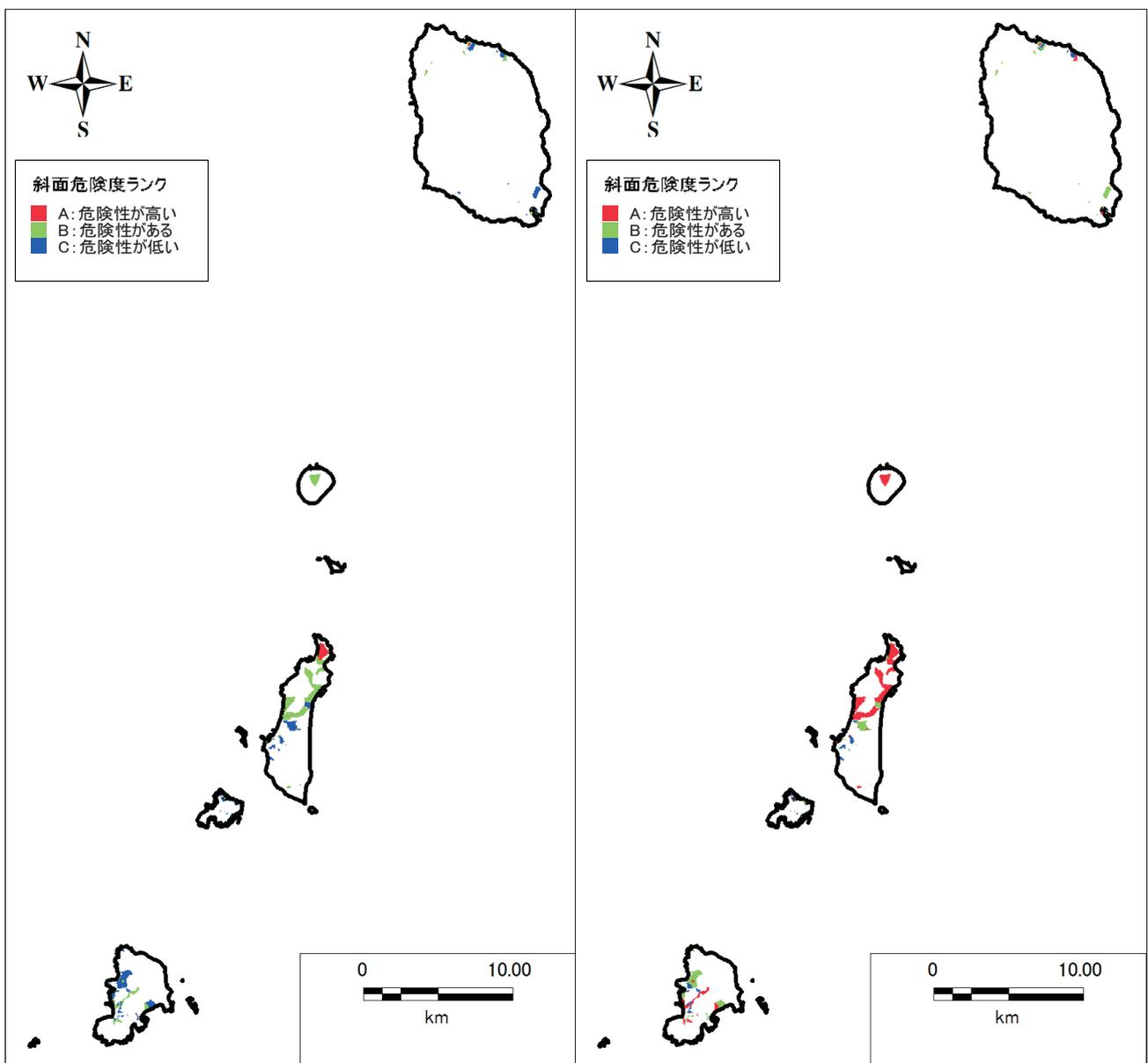


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケースの斜面崩壊危険度分布  
(三宅島～御蔵島)

図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケース+経験的手法の斜面崩壊危険度分布  
(三宅島～御蔵島)

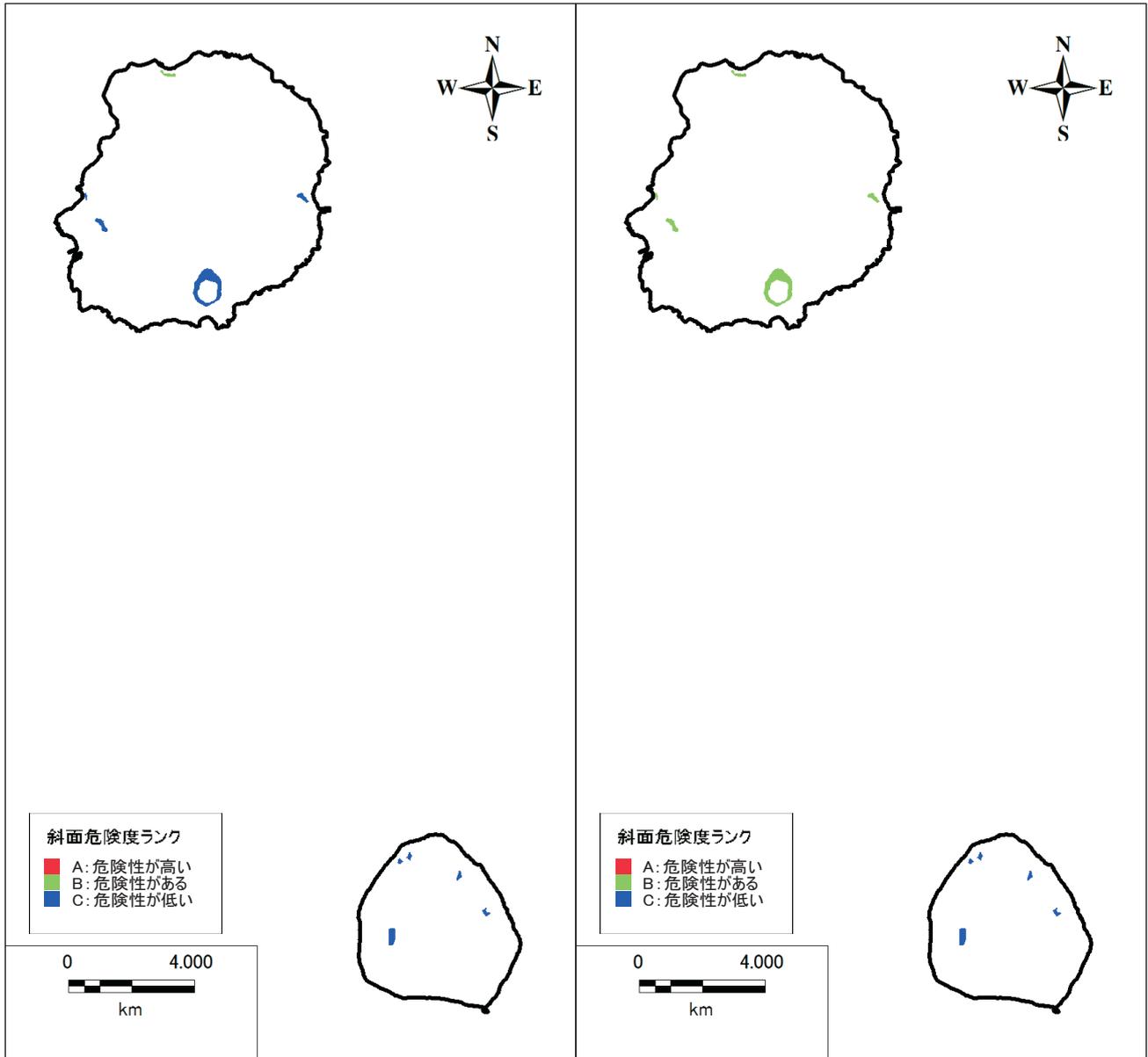


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケースの斜面崩壊危険度分布  
(八丈島～青ヶ島)

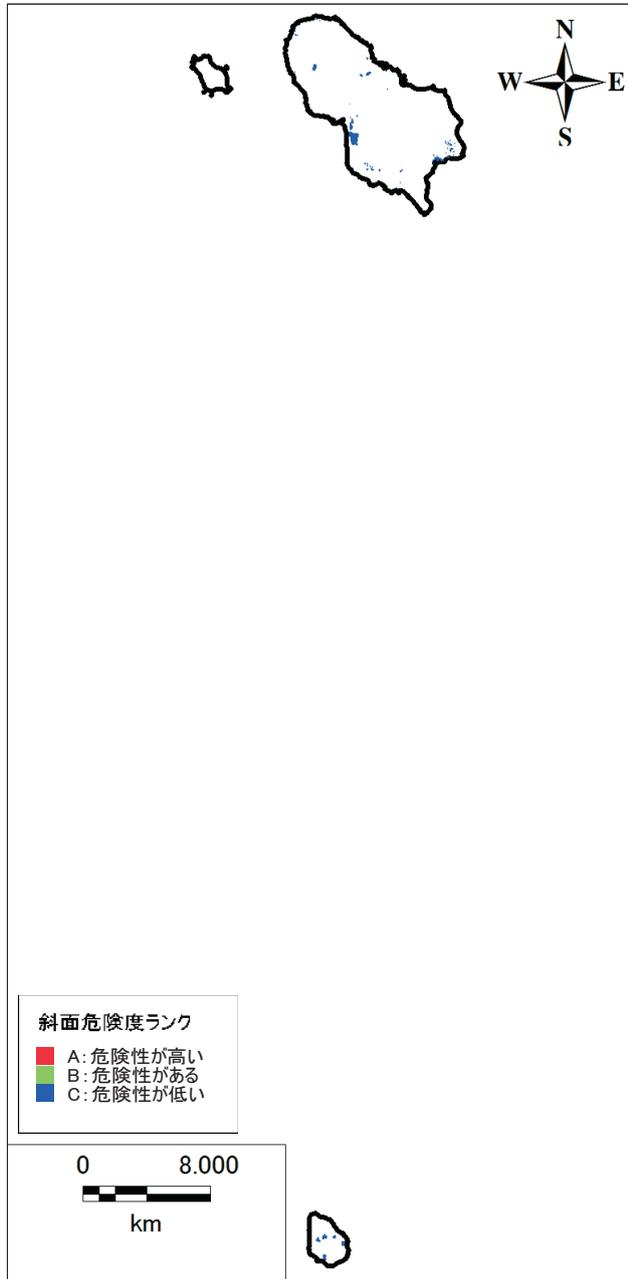


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
東側ケース+経験的手法の斜面崩壊危険度分布  
(八丈島～青ヶ島)

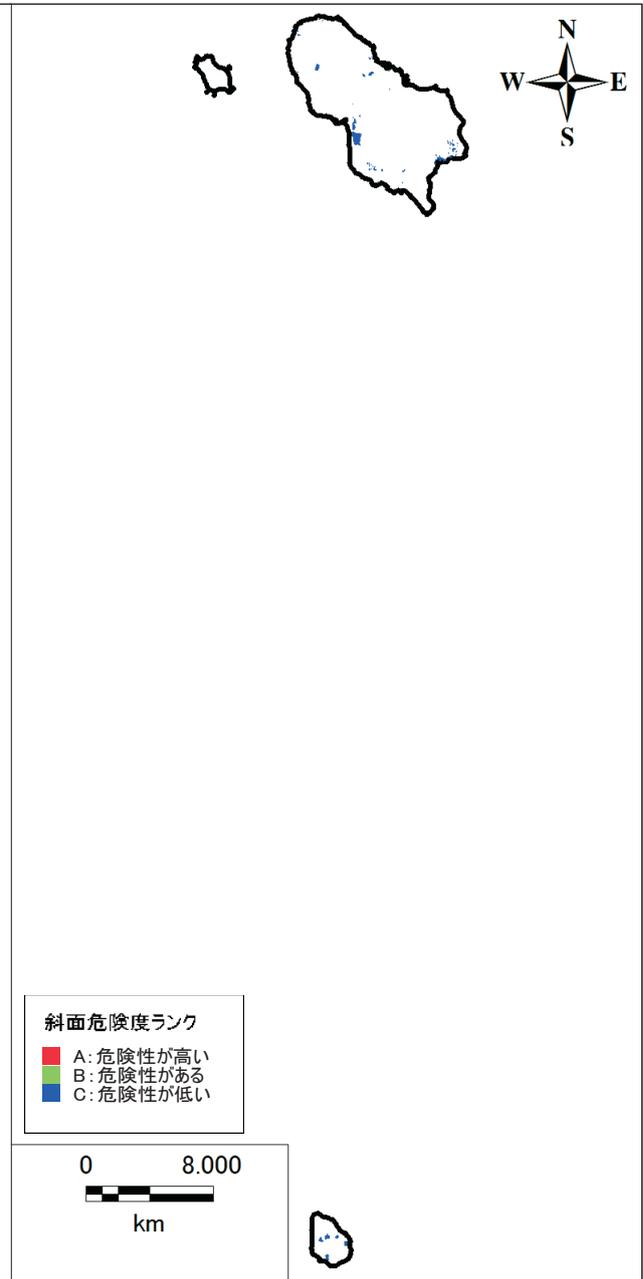
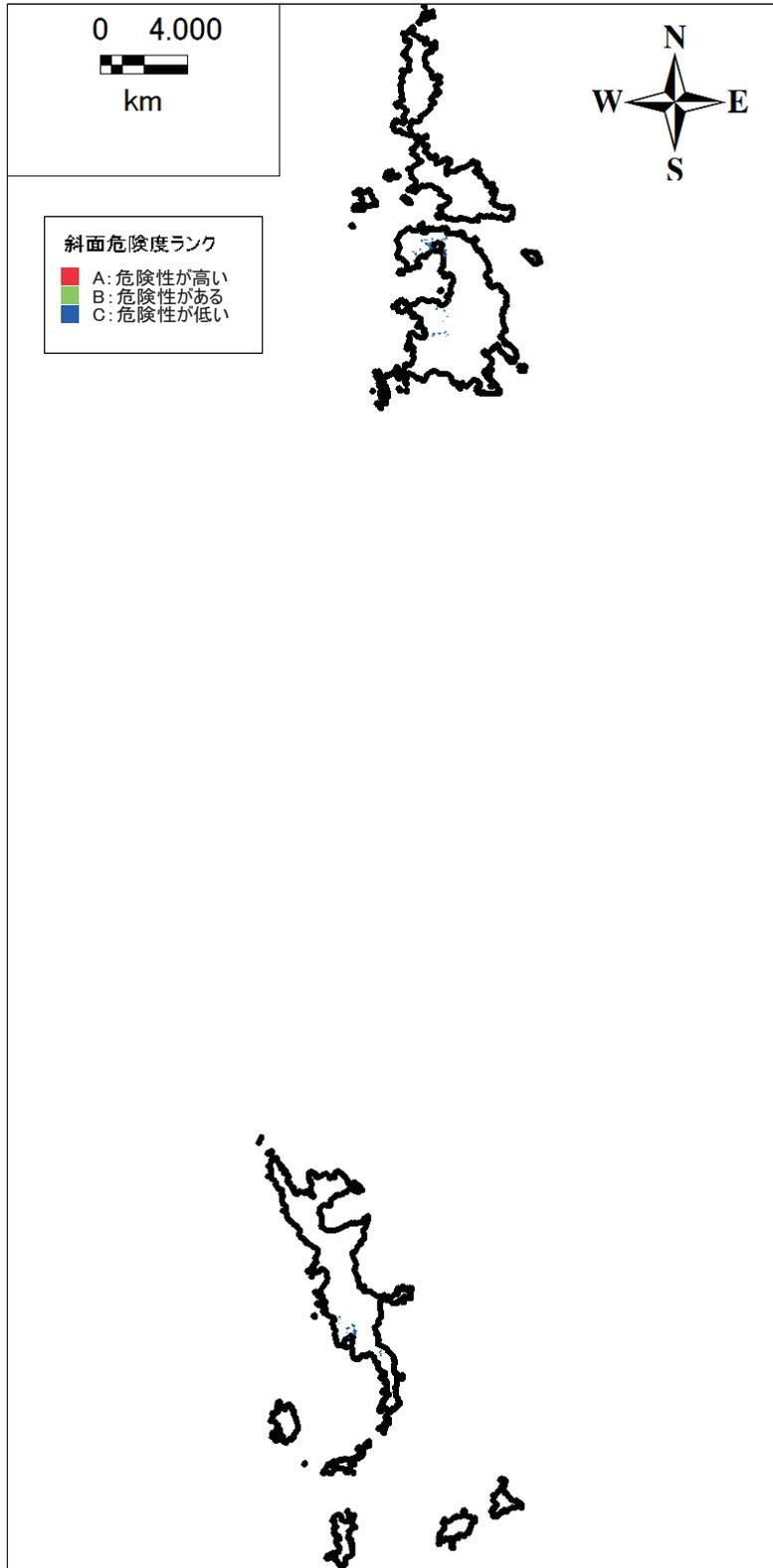


図 南海トラフ巨大地震(M9.0)  
経験的手法の斜面崩壊危険度分布  
(父島～母島)

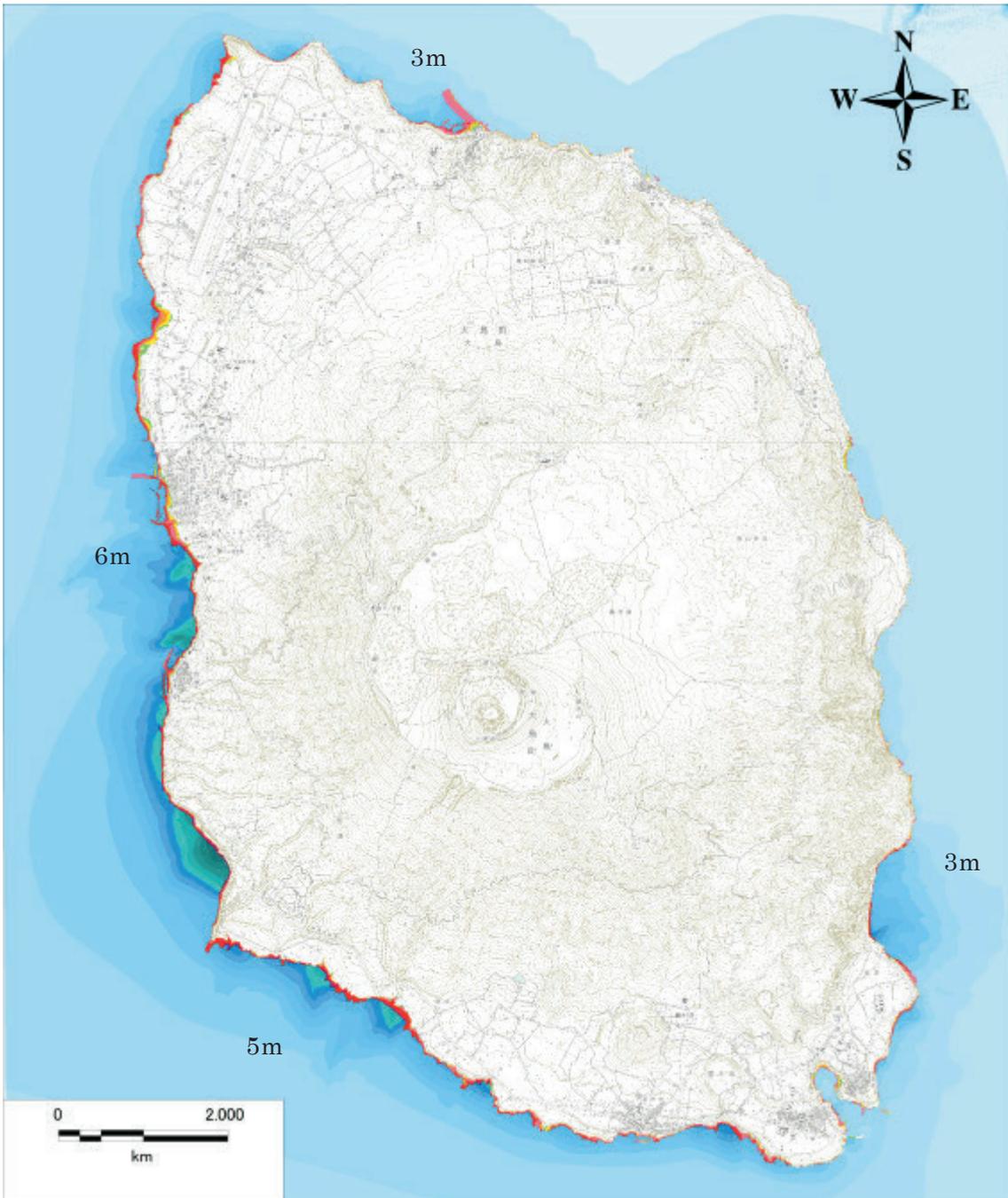


## 4 津波高及び浸水域予測結果

---

### (1) 南海トラフ巨大地震の浸水分布

南海トラフ巨大地震（津波用：M9.1）の5つのケースをシミュレーションしたところ、大島、利島、新島、神津島、三宅島及び御蔵島ではケース⑧、式根島ではケース①、八丈島及び青ヶ島ではケース⑥、父島及び母島ではケース⑤の場合が、島全体における最大の津波高を示した。しかし、各島の港湾・漁港・海岸などの特定の範囲に限ると、別のケースが最大となる場合もあった。



大島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑧)

最大浸水深 (m)

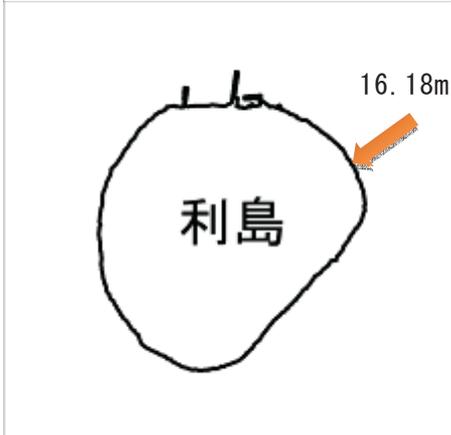
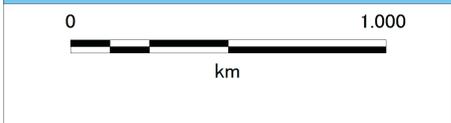
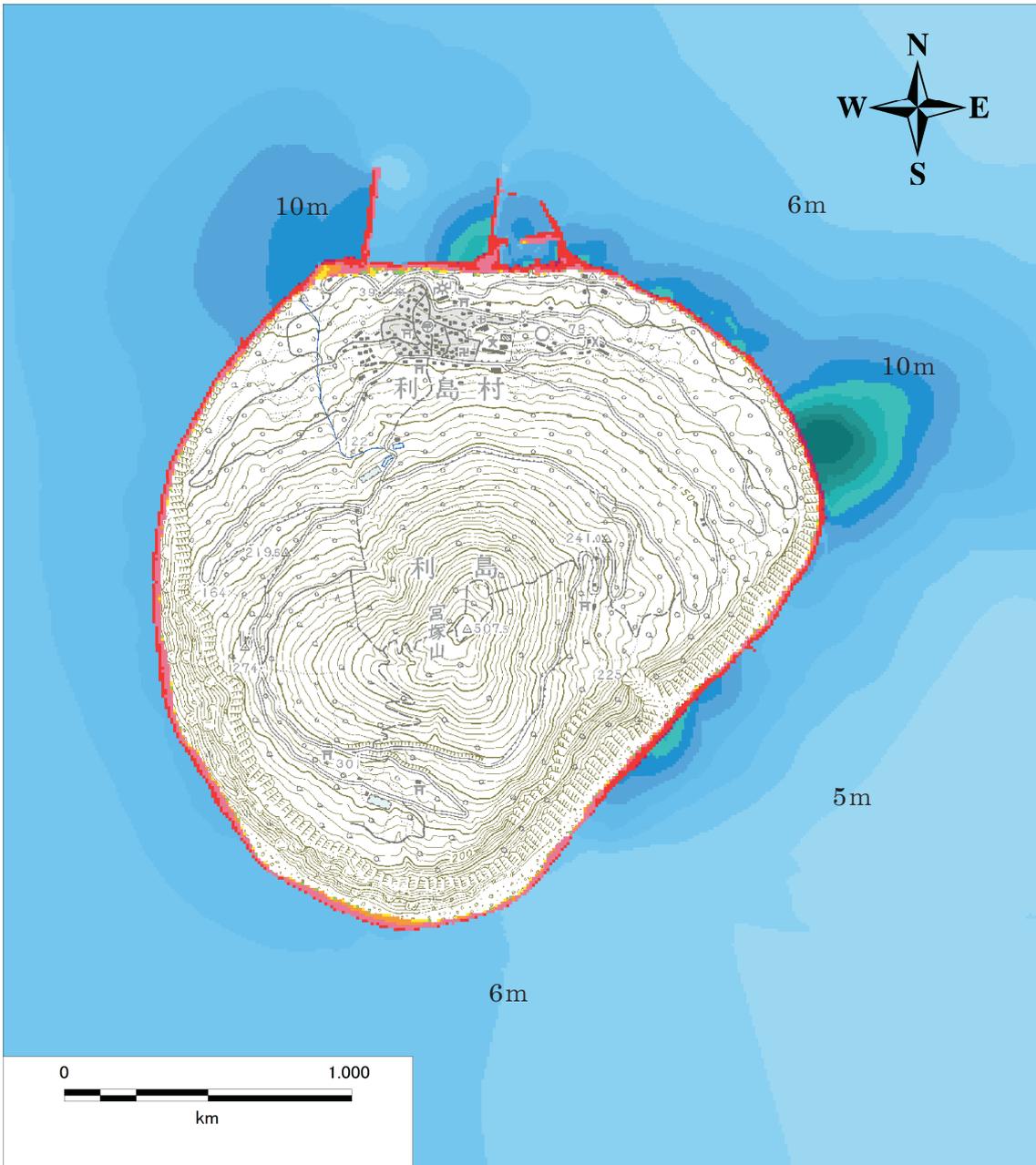
20m以上	20m未満
10m以上	10m未満
5m以上	5m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0.3m以上	0.3m未満

最大津波高 (m)

30m以上	30m未満
20m以上	20m未満
15m以上	15m未満
14m以上	14m未満
13m以上	13m未満
12m以上	12m未満
11m以上	11m未満
10m以上	10m未満
9m以上	9m未満
8m以上	8m未満
7m以上	7m未満
6m以上	6m未満
5m以上	5m未満
4m以上	4m未満
3m以上	3m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0m以上	0m未満

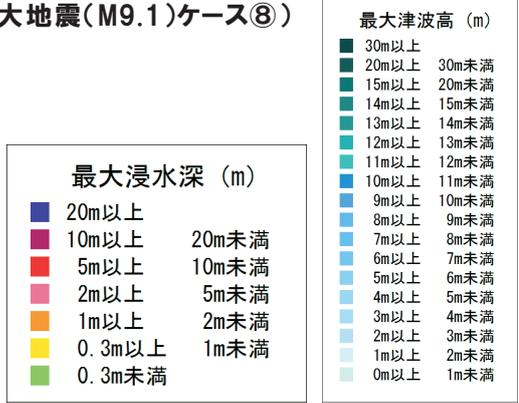
大島全体での最大津波高地点

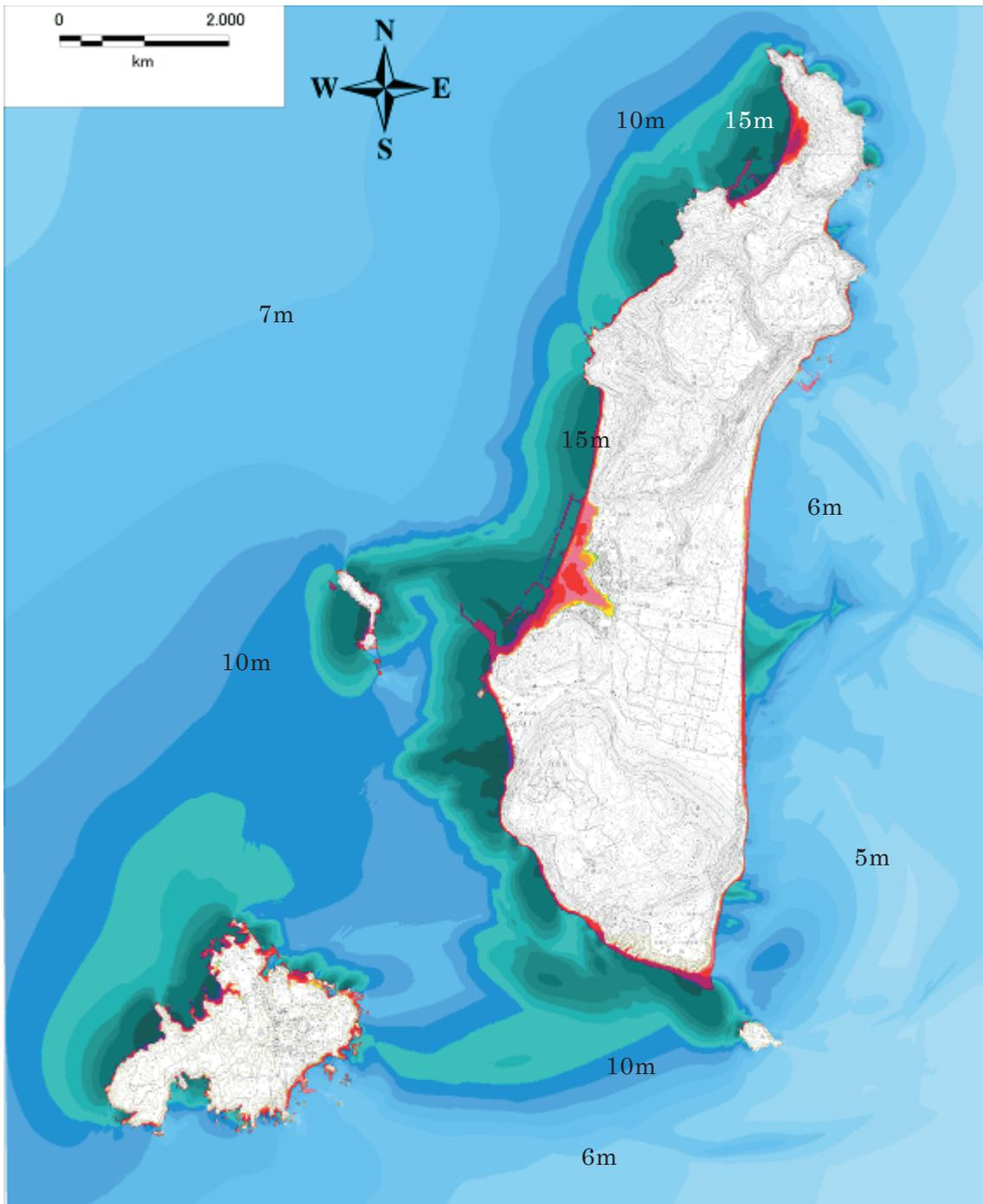
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 25 情復、 第 27 号)



利島全体での最大津波高地点

利島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑧)





新島全体での最大津波高地点

**新島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑧)**

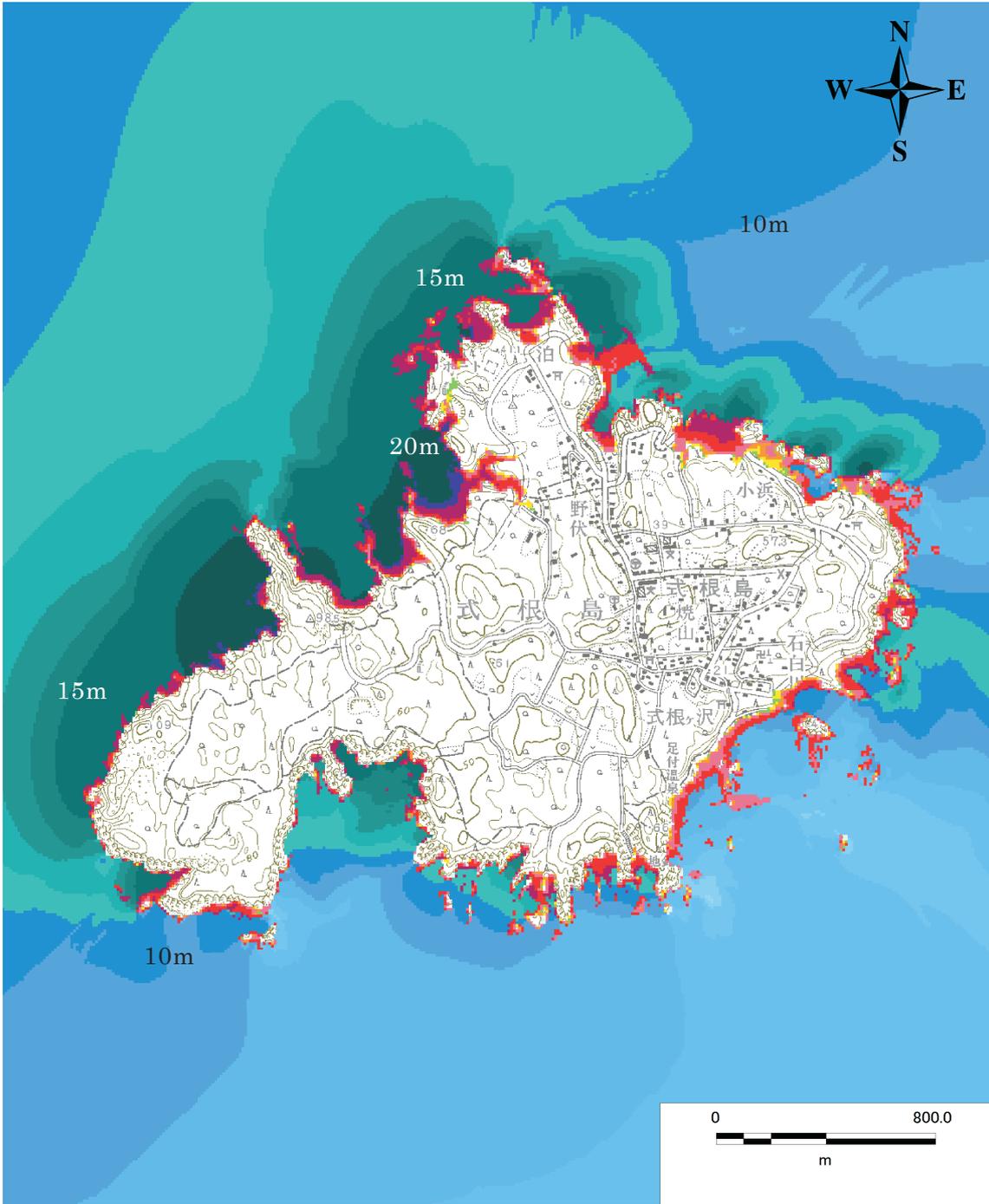
**最大浸水深 (m)**

20m以上	20m未満
10m以上	10m未満
5m以上	5m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0.3m以上	0.3m未満

**最大津波高 (m)**

30m以上	30m未満
20m以上	20m未満
15m以上	15m未満
14m以上	14m未満
13m以上	13m未満
12m以上	12m未満
11m以上	11m未満
10m以上	10m未満
9m以上	9m未満
8m以上	8m未満
7m以上	7m未満
6m以上	6m未満
5m以上	5m未満
4m以上	4m未満
3m以上	3m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0m以上	0m未満

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 25 情復、 第 27 号)



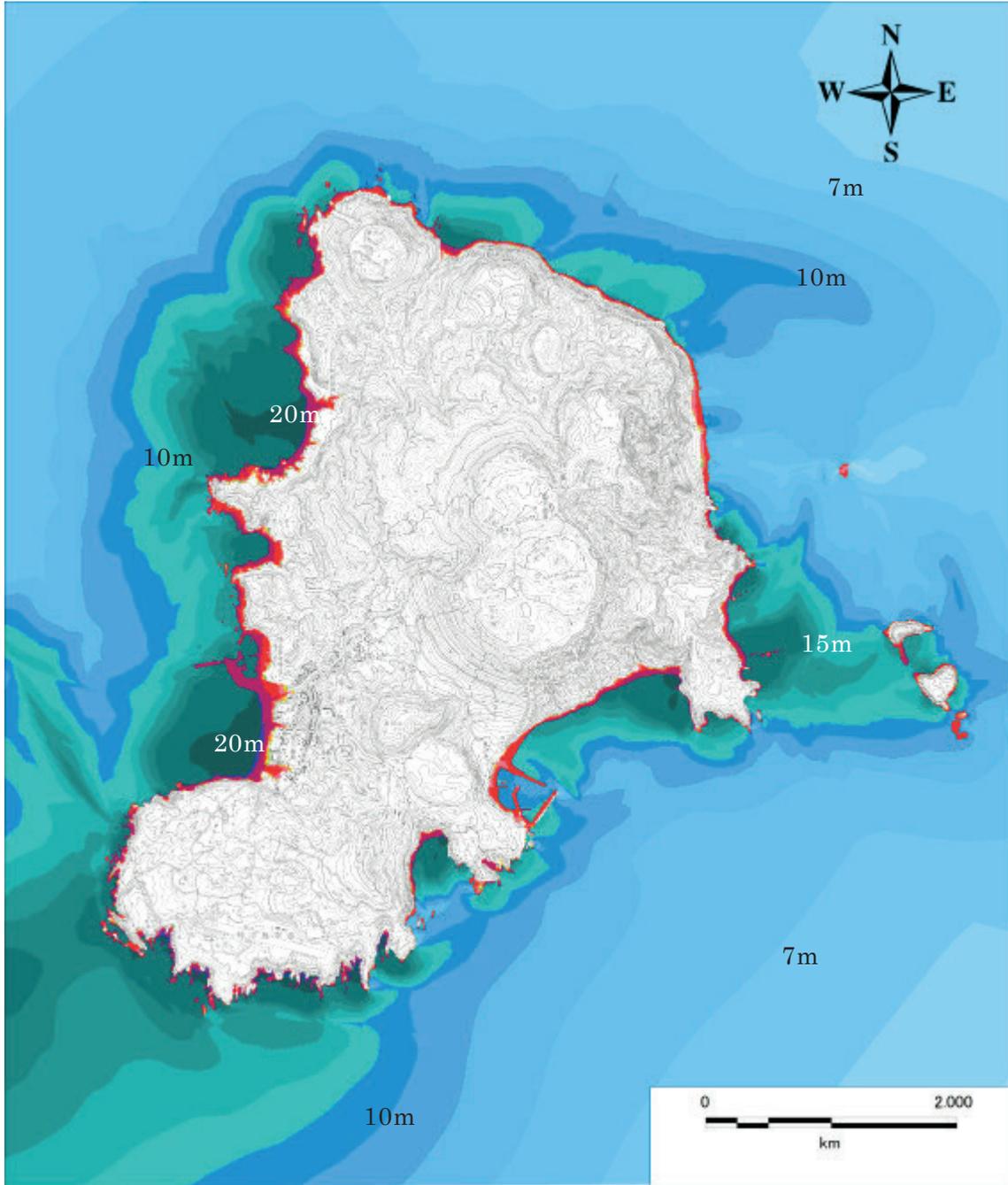
式根島全体での最大津波高地点

式根島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース①)

最大浸水深 (m)	
■ 20m以上	20m未満
■ 10m以上	10m未満
■ 5m以上	5m未満
■ 2m以上	2m未満
■ 1m以上	1m未満
■ 0.3m以上	0.3m未満

最大津波高 (m)	
■ 30m以上	30m未満
■ 20m以上	20m未満
■ 15m以上	15m未満
■ 14m以上	14m未満
■ 13m以上	13m未満
■ 12m以上	12m未満
■ 11m以上	11m未満
■ 10m以上	10m未満
■ 9m以上	9m未満
■ 8m以上	8m未満
■ 7m以上	7m未満
■ 6m以上	6m未満
■ 5m以上	5m未満
■ 4m以上	4m未満
■ 3m以上	3m未満
■ 2m以上	2m未満
■ 1m以上	1m未満
■ 0m以上	0m未満

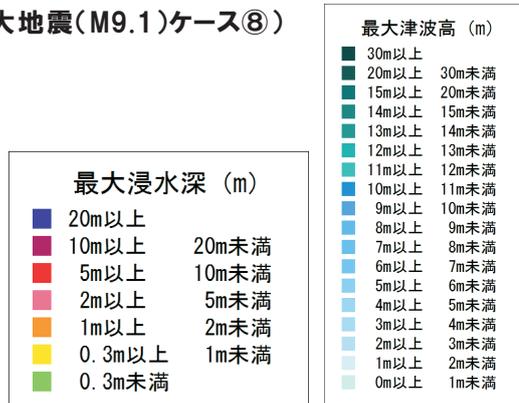
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 25 情復、 第 27 号)



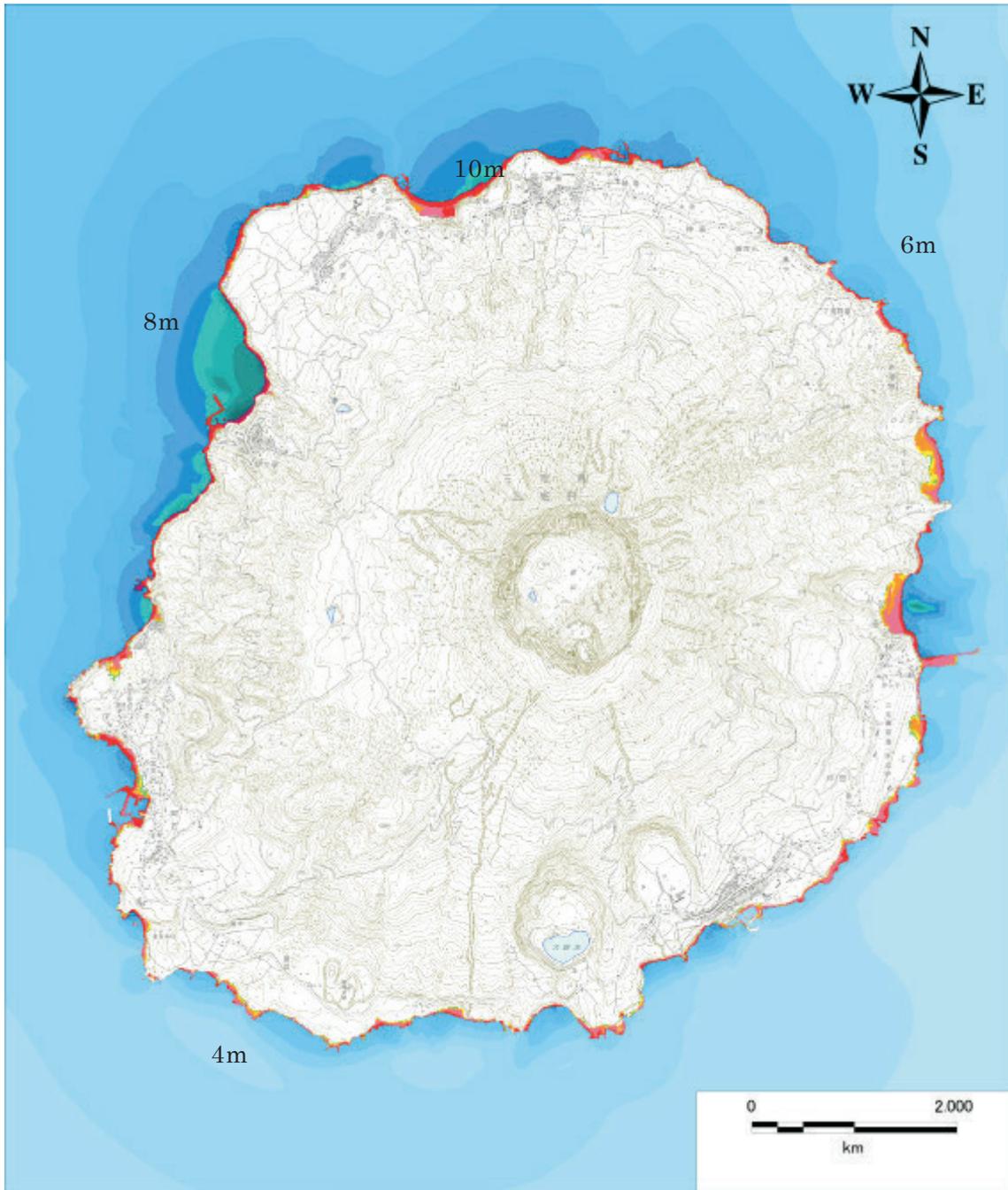
28.43m

神津島全体での最大津波高地点

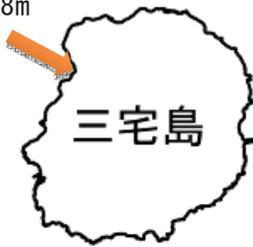
神津島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑧)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情複、第27号)

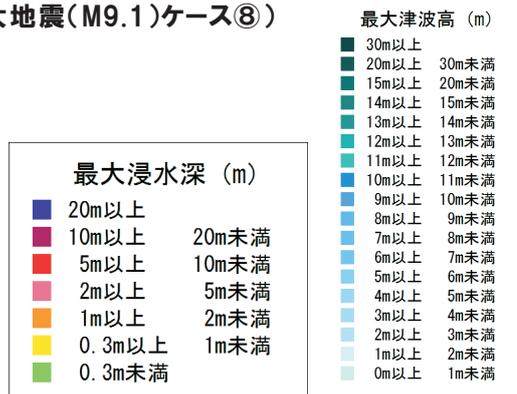


16.98m



三宅島全体での最大津波高地点

三宅島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑧)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情覆 第27号)



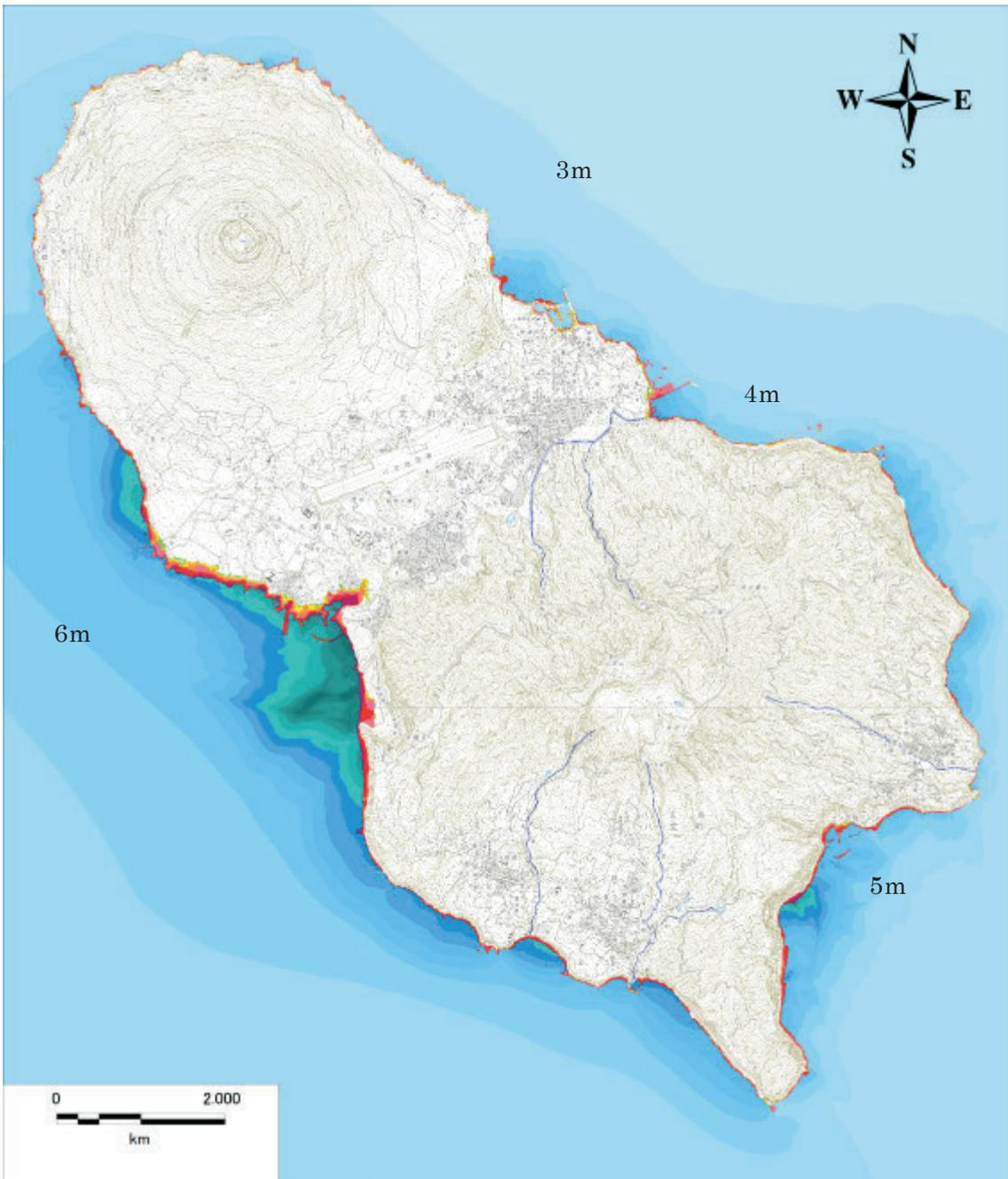
御蔵島全体での最大津波高地点

御蔵島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑧)

最大浸水深 (m)	
■ 20m以上	20m未満
■ 10m以上	10m未満
■ 5m以上	5m未満
■ 2m以上	2m未満
■ 1m以上	1m未満
■ 0.3m以上	0.3m未満
■ 0.3m未満	

最大津波高 (m)	
■ 30m以上	30m未満
■ 20m以上	20m未満
■ 15m以上	15m未満
■ 14m以上	14m未満
■ 13m以上	13m未満
■ 12m以上	12m未満
■ 11m以上	11m未満
■ 10m以上	10m未満
■ 9m以上	9m未満
■ 8m以上	8m未満
■ 7m以上	7m未満
■ 6m以上	6m未満
■ 5m以上	5m未満
■ 4m以上	4m未満
■ 3m以上	3m未満
■ 2m以上	2m未満
■ 1m以上	1m未満
■ 0m以上	

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 25 情復、 第 27 号)



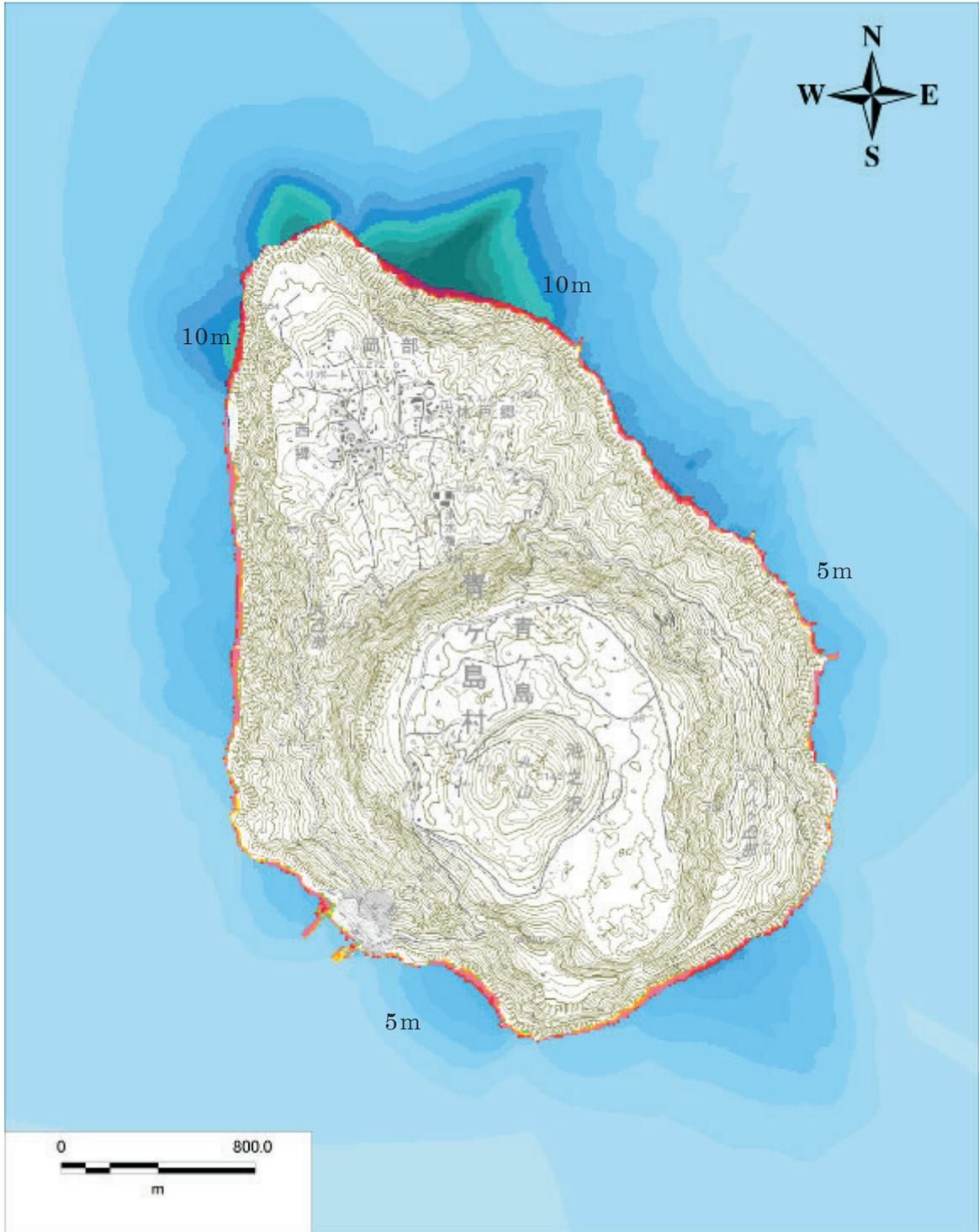
八丈島全体での最大津波高地点

八丈島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑥)

最大浸水深 (m)	
■ 20m以上	20m未満
■ 10m以上	10m未満
■ 5m以上	5m未満
■ 2m以上	2m未満
■ 1m以上	1m未満
■ 0.3m以上	0.3m未満
■ 0.3m未満	

最大津波高 (m)	
■ 30m以上	30m未満
■ 20m以上	20m未満
■ 15m以上	15m未満
■ 14m以上	15m未満
■ 13m以上	14m未満
■ 12m以上	13m未満
■ 11m以上	12m未満
■ 10m以上	11m未満
■ 9m以上	10m未満
■ 8m以上	9m未満
■ 7m以上	8m未満
■ 6m以上	7m未満
■ 5m以上	6m未満
■ 4m以上	5m未満
■ 3m以上	4m未満
■ 2m以上	3m未満
■ 1m以上	2m未満
■ 0m以上	1m未満

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情復、第27号)



青ヶ島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑥)

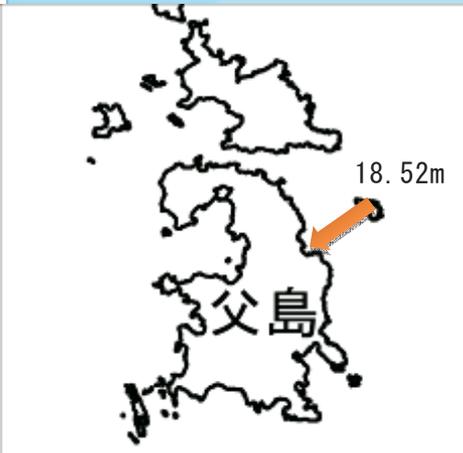
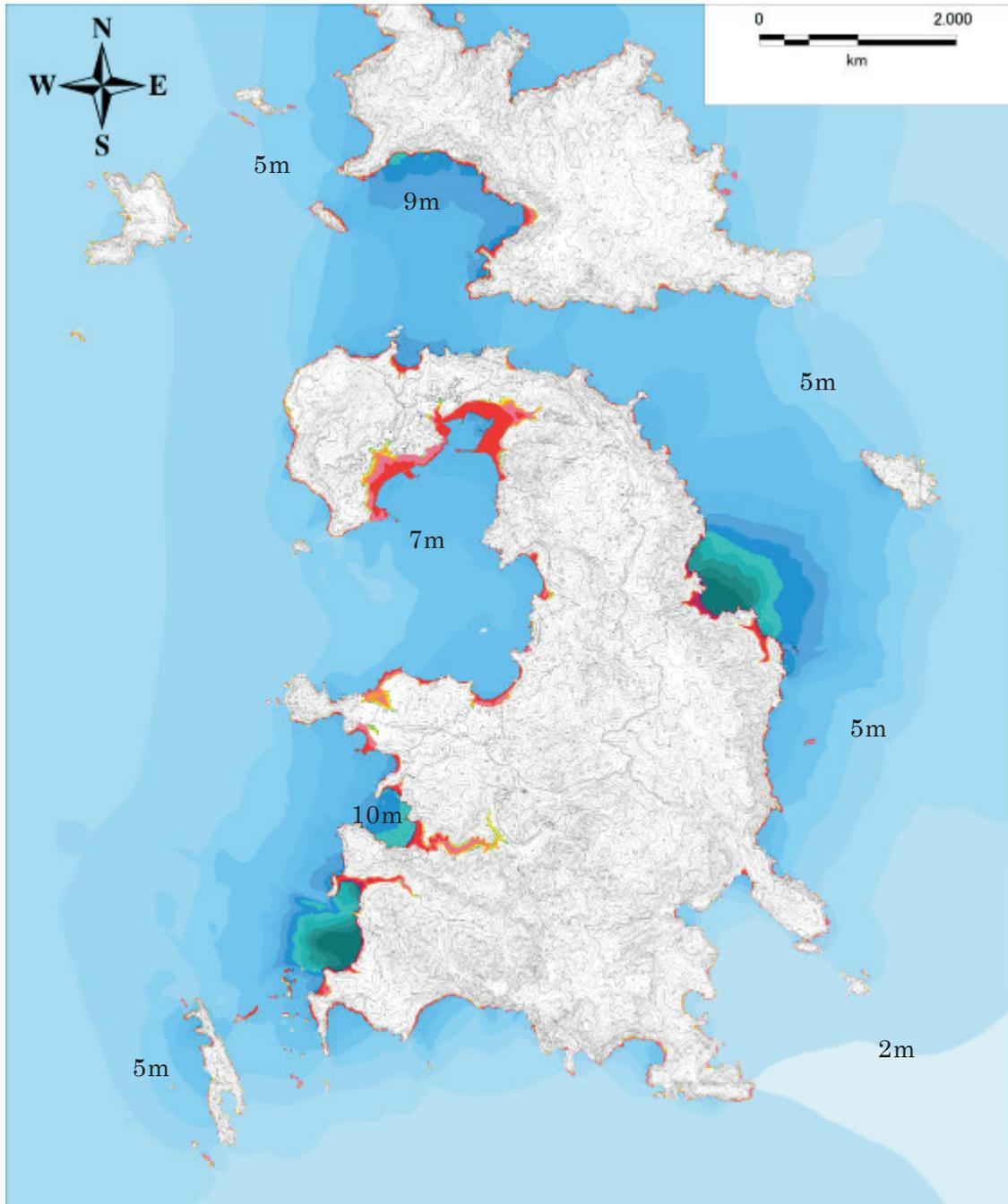
最大津波高 (m)	
30m以上	30m未満
20m以上	20m未満
15m以上	15m未満
14m以上	14m未満
13m以上	14m未満
12m以上	13m未満
11m以上	12m未満
10m以上	11m未満
9m以上	10m未満
8m以上	9m未満
7m以上	8m未満
6m以上	7m未満
5m以上	6m未満
4m以上	5m未満
3m以上	4m未満
2m以上	3m未満
1m以上	2m未満
0m以上	1m未満

最大浸水深 (m)	
20m以上	20m未満
10m以上	10m未満
5m以上	5m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0.3m以上	1m未満
0.3m未満	

青ヶ島全体での最大津波高地点

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 25 情複、 第 27 号)



父島の最大津波高・最大浸水深分布図  
(南海トラフ巨大地震(M9.1)ケース⑤)

最大浸水深 (m)

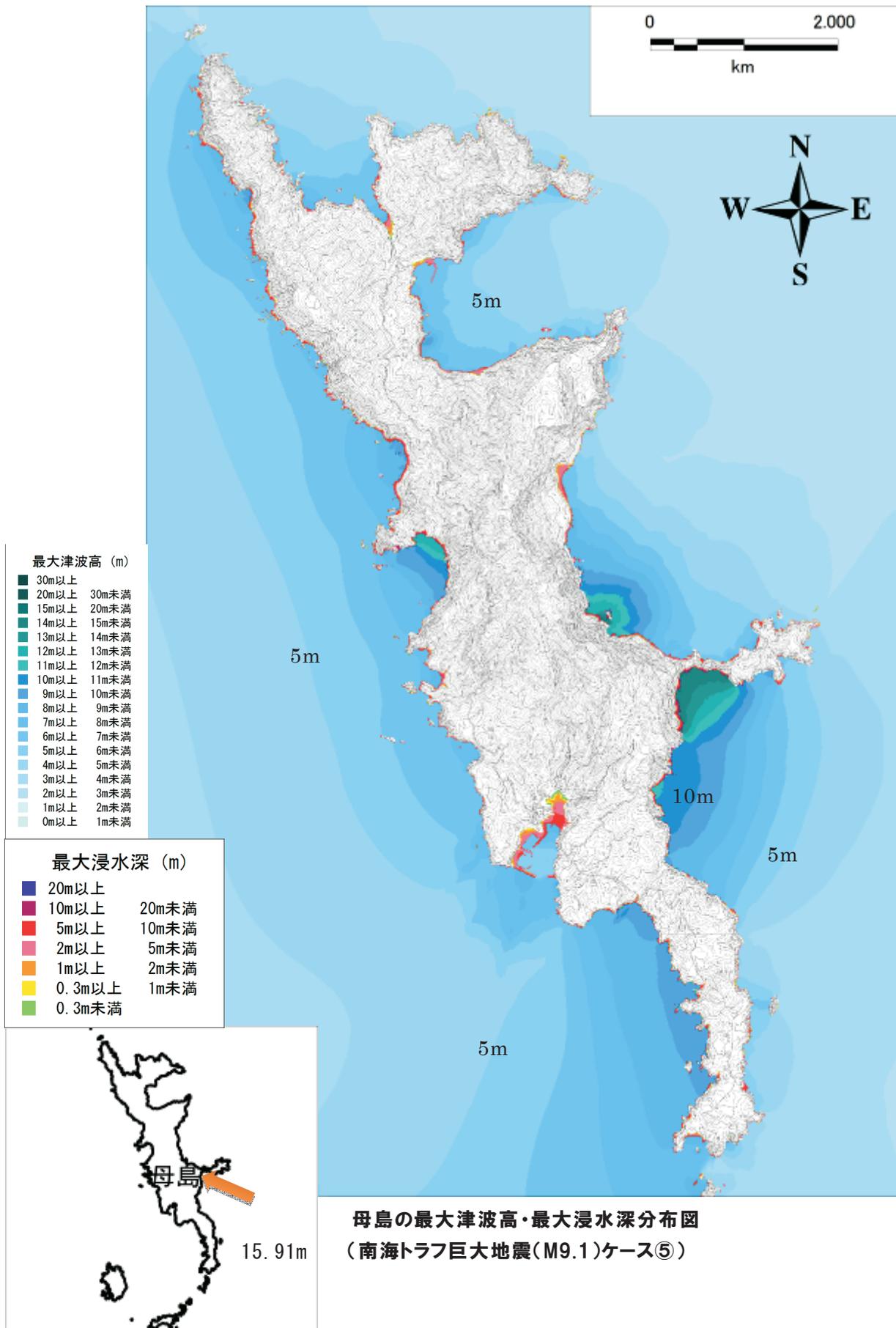
20m以上	20m未満
10m以上	10m未満
5m以上	5m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0.3m以上	0.3m未満

最大津波高 (m)

30m以上	30m未満
20m以上	20m未満
15m以上	15m未満
14m以上	14m未満
13m以上	13m未満
12m以上	12m未満
11m以上	11m未満
10m以上	10m未満
9m以上	9m未満
8m以上	8m未満
7m以上	7m未満
6m以上	6m未満
5m以上	5m未満
4m以上	4m未満
3m以上	3m未満
2m以上	2m未満
1m以上	1m未満
0m以上	1m未満

父島全体での最大津波高地点

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情復、第27号)



母島全体での最大津波高地点

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情復 第27号)

## 5 建物被害・人的被害

### 5. 1 地震別シーン別の建物被害・人的被害想定結果

- 津波による被害が甚大となり、島しょ全体としては南海トラフ巨大地震（東側ケース＋経験的手法）津波ケース⑥が建物被害、人的被害ともに最大となる。
- 建物被害・人的被害については、東京都（2012）「首都直下地震等による東京の被害想定」の中で、海溝型地震として検討した元禄型関東地震による被害についてもあわせて整理する。

表 島しょ部における建物被害・人的被害(概要)

		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	建物全壊棟数					
	ケース別	南海トラフ①			1,175	棟
		南海トラフ②			263	棟
		南海トラフ⑤			372	棟
		南海トラフ⑥			1,282	棟
		南海トラフ⑧			1,157	棟
		元禄型関東			294	棟
人的被害	死者数					
	ケース別	南海トラフ①	1,302	人	1,714	人
		南海トラフ②	78	人	96	人
		南海トラフ⑤	109	人	172	人
		南海トラフ⑥	1,332	人	1,774	人
		南海トラフ⑧	1,192	人	1,749	人
		元禄型関東	90	人	165	人

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

(1) 南海トラフ巨大地震

津波による被害が甚大となり、島しょ部計としては津波ケース⑥が最大となる。早期避難者比率が低い場合、深夜における津波による死者数は、津波ケース⑥で 1,764 人と想定されるが、入念な備えなどによる避難の迅速化によって、0 人に低減できる可能性がある（5. 3 津波による人的被害の想定結果（詳細）を参照）。

**表 南海トラフ巨大地震の主な被害**  
(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース①)

シーン設定		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	原因別	建物全壊計			1,175	棟
		揺れ			0	棟
		液状化			0	棟
		急傾斜地崩壊等			122	棟
		火災			0	棟
		津波			1,053	棟
人的被害	原因別	死者計	1,302	人	1,714	人
		揺れ	0	人	0	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	10	人
		火災	0	人	0	人
		津波	1,293	人	1,704	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
		(屋内収容物)	0	人	0	人
	原因別	負傷者計	67	人	94	人
		(うち重傷者)	20	人	30	人
		揺れ	11	人	14	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	11	人
		火災	0	人	0	人
		津波	47	人	69	人
その他	屋外転倒・落下物	0	人	0	人	
	(屋内収容物)	0	人	0	人	
その他	自力脱出困難者	0	人	0	人	
	津波要救助者	30	人	42	人	

\*液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物による人的被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 南海トラフ巨大地震の主な被害**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース②)**

シーン設定		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	原因別	建物全壊計			263	棟
		揺れ			0	棟
		液状化			0	棟
		急傾斜地崩壊等			122	棟
		火災			0	棟
		津波			141	棟
人的被害	原因別	死者計	78	人	96	人
		揺れ	0	人	0	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	10	人
		火災	0	人	0	人
		津波	69	人	86	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
		(屋内収容物)	0	人	0	人
	原因別	負傷者計	26	人	31	人
		(うち重傷者)	8	人	10	人
		揺れ	11	人	14	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	11	人
		火災	0	人	0	人
		津波	6	人	6	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
(屋内収容物)	0	人	0	人		
その他	自力脱出困難者	0	人	0	人	
	津波要救助者	29	人	40	人	

\*液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物による人的被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 南海トラフ巨大地震の主な被害**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑤)**

シーン設定		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	原因別	建物全壊計			372	棟
		揺れ			0	棟
		液状化			0	棟
		急傾斜地崩壊等			122	棟
		火災			0	棟
		津波			250	棟
人的被害	原因別	死者計	109	人	172	人
		揺れ	0	人	0	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	10	人
		火災	0	人	0	人
		津波	100	人	162	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
		(屋内収容物)	0	人	0	人
	原因別	負傷者計	26	人	29	人
		(うち重傷者)	8	人	9	人
		揺れ	11	人	14	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	11	人
		火災	0	人	0	人
		津波	6	人	4	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
(屋内収容物)	0	人	0	人		
その他	自力脱出困難者	0	人	0	人	
	津波要救助者	33	人	37	人	

\*液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物による人的被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 南海トラフ巨大地震の主な被害**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑥)**

シーン設定		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	原因別	建物全壊計			1,282	棟
		揺れ			0	棟
		液状化			0	棟
		急傾斜地崩壊等			122	棟
		火災			0	棟
		津波			1,160	棟
人的被害	原因別	死者計	1,332	人	1,774	人
		揺れ	0	人	0	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	10	人
		火災	0	人	0	人
		津波	1,323	人	1,764	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
		(屋内収容物)	0	人	0	人
	原因別	負傷者計	63	人	90	人
		(うち重傷者)	19	人	29	人
		揺れ	11	人	14	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	11	人
		火災	0	人	0	人
		津波	43	人	65	人
その他	屋外転倒・落下物	0	人	0	人	
	(屋内収容物)	0	人	0	人	
その他	自力脱出困難者	0	人	0	人	
	津波要救助者	41	人	52	人	

\*液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物による人的被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 南海トラフ巨大地震の主な被害**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑧)**

シーン設定		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	原因別	建物全壊計			1,157	棟
		揺れ			0	棟
		液状化			0	棟
		急傾斜地崩壊等			122	棟
		火災			0	棟
		津波			1,035	棟
人的被害	原因別	死者計	1,192	人	1,749	人
		揺れ	0	人	0	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	10	人
		火災	0	人	0	人
		津波	1,183	人	1,739	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
		(屋内収容物)	0	人	0	人
	原因別	負傷者計	59	人	78	人
		(うち重傷者)	19	人	26	人
		揺れ	11	人	14	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	11	人
		火災	0	人	0	人
		津波	39	人	53	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
(屋内収容物)	0	人	0	人		
その他	自力脱出困難者	0	人	0	人	
	津波要救助者	23	人	31	人	

\*液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物による人的被害は参考値のため、合計には含めない。

## (2) 元禄型関東地震

大島において揺れによる建物被害が発生する一方、三宅島等では津波による建物被害が発生する。早期避難者比率が低い場合、深夜における津波による死者数は、155人と想定されるが、入念な備えなどによる避難の迅速化によって、0人にまで低減できる可能性がある（5.3津波による人的被害の想定結果（詳細）を参照）。

表 元禄型関東地震の主な被害

シーン設定		冬・昼間		冬・深夜		
建物被害	原因別	建物全壊計			294	棟
		揺れ			19	棟
		液状化			0	棟
		急傾斜地崩壊等			152	棟
		火災			0	棟
		津波			123	棟
人的被害	原因別	死者計	90	人	165	人
		揺れ	0	人	0	人
		急傾斜地崩壊等	9	人	10	人
		火災	0	人	0	人
		津波	81	人	155	人
		屋外転倒・落下物	0	人	0	人
		(屋内収容物)	0	人	0	人
	原因別	負傷者計	78	人	100	人
		(うち重傷者)	8	人	11	人
		揺れ	62	人	77	人
		急傾斜地崩壊等	12	人	13	人
		火災	0	人	0	人
		津波	4	人	10	人
その他	屋外転倒・落下物	0	人	0	人	
	(屋内収容物)	0	人	1	人	
その他	自力脱出困難者	2	人	2	人	
	津波要救助者	4	人	6	人	

\*液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物による人的被害は参考値のため、合計には含めない。

## 5. 2 町村別の建物被害・人的被害想定結果

### (1) 最悪ケースにおける被害想定結果（総括）

各島の最悪ケース（人的被害が最大となる地震動・津波ケース）における建物被害・人的被害想定結果の総括表を以下に示す。

町村名・島名	建物棟数 (棟)	建物被害 (棟)		人口(人)	人的被害(人)		人的被害が最大となる 地震動・津波ケース	人的被害が最大 となるシーン	
		全壊	半壊		死者	負傷者			
大島町	5,988	41	159	8,461	37	21	南海トラフ巨大地震 津波ケース⑧	冬・深夜	
利島村	243	26	33	341	5	2	南海トラフ巨大地震 津波ケース①、⑥	冬・昼間	
新島村	新島	1,684	758	195	2,351	1,313	38	南海トラフ巨大地震 津波ケース⑧	冬・深夜
	式根島	490	16	13	532	16	1	南海トラフ巨大地震 津波ケース①、⑥	冬・昼間
神津島村	1,540	224	75	1,889	288	7	南海トラフ巨大地震 津波ケース⑥	冬・昼間	
三宅村	1,911	117	13	2,676	143	0	元禄型関東地震	冬・深夜	
御蔵島村	183	0	0	348	0	0	-	-	
八丈町	5,154	24	35	8,231	23	7	南海トラフ巨大地震 津波ケース⑥	冬・深夜	
青ヶ島村	90	0	0	201	1	0	南海トラフ巨大地震 津波ケース①、②、⑥、⑧	冬・昼間	
小笠原村	父島	508	211	53	1,880	127	3	南海トラフ巨大地震 津波ケース⑤	冬・深夜
	母島	132	37	15	491	34	1	南海トラフ巨大地震 津波ケース⑤	冬・深夜

\*人口は、平成22年国勢調査による夜間人口の値

\*人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

### (2) 揺れ・液状化・急傾斜地崩壊等・津波による建物被害想定結果

津波による被害が全体的に大きく、島しょ部計としては津波ケース⑥において最大の全壊棟数1,282棟と想定される。このうち津波による全壊棟数は1,160棟であり、約9割を占める。

**表 町村別原因別建物被害結果(南海トラフ巨大地震)  
(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース①)**

町村名・島名	原因別建物全壊棟数					原因別建物半壊棟数					
	計	揺れ	液状化	急傾斜地 崩壊等	津波	計	揺れ	液状化	急傾斜地 崩壊等	津波	
大島町	37	0	0	31	6	141	65	0	41	35	
利島村	26	0	0	24	2	33	1	0	32	0	
新島村	新島	737	0	0	22	715	200	5	0	20	175
	式根島	16	0	0	2	14	13	2	0	3	8
神津島村	224	0	0	42	182	75	8	0	49	18	
三宅村	76	0	0	1	75	35	0	0	1	34	
御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八丈町	16	0	0	0	16	0	0	0	0	0	
青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小笠原村	父島	42	0	0	0	42	104	0	0	0	104
	母島	1	0	0	0	1	8	0	0	0	8
島しょ部計	1,175	0	0	122	1,053	609	81	0	146	382	

※液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

**表 町村別原因別建物被害結果(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース②)**

町村名・島名	原因別建物全壊棟数					原因別建物半壊棟数					
	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	
大島町	31	0	0	31	0	107	66	0	41	0	
利島村	24	0	0	24	0	33	1	0	32	0	
新島村	新島	22	0	0	22	0	41	10	0	30	1
	式根島	2	0	0	2	0	6	2	0	3	1
神津島村	47	0	0	42	5	67	9	0	55	3	
三宅村	1	0	0	1	0	2	0	0	1	1	
御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八丈町	2	0	0	0	2	7	0	0	0	7	
青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小笠原村	父島	133	0	0	0	133	67	0	0	67	
	母島	1	0	0	0	1	9	0	0	9	
島しょ部計	263	0	0	122	141	339	88	0	162	89	

※液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

**表 町村別原因別建物被害結果(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑤)**

町村名・島名	原因別建物全壊棟数					原因別建物半壊棟数					
	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	
大島町	31	0	0	31	0	107	66	0	41	0	
利島村	24	0	0	24	0	33	1	0	32	0	
新島村	新島	22	0	0	22	0	40	10	0	30	0
	式根島	2	0	0	2	0	5	2	0	3	0
神津島村	42	0	0	42	0	67	9	0	56	2	
三宅村	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	
御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八丈町	2	0	0	0	2	1	0	0	0	1	
青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小笠原村	父島	211	0	0	0	211	53	0	0	53	
	母島	37	0	0	0	37	15	0	0	15	
島しょ部計	372	0	0	122	250	322	88	0	163	71	

※液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

**表 町村別原因別建物被害結果(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑥)**

町村名・島名	原因別建物全壊棟数					原因別建物半壊棟数				
	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波
大島町	37	0	0	31	6	142	65	0	41	36
利島村	26	0	0	24	2	33	1	0	32	0
新島村	新島	739	0	0	22	717	200	5	20	175
	式根島	16	0	0	2	14	13	2	3	8
神津島村	224	0	0	42	182	75	8	0	49	18
三宅村	87	0	0	1	86	29	0	0	1	28
御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八丈町	24	0	0	0	24	35	0	0	0	35
青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小笠原村	父島	127	0	0	0	127	69	0	0	69
	母島	2	0	0	0	2	11	0	0	11
島しょ部計	1,282	0	0	122	1,160	607	81	0	146	380

※液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

**表 町村別原因別建物被害結果(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑧)**

町村名・島名	原因別建物全壊棟数					原因別建物半壊棟数					
	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	
大島町	41	0	0	31	10	159	65	0	41	53	
利島村	26	0	0	24	2	33	1	0	32	0	
新島村	新島	758	0	0	22	736	195	5	0	20	170
	式根島	15	0	0	2	13	13	2	0	3	8
神津島村	219	0	0	42	177	75	8	0	49	18	
三宅村	74	0	0	1	73	33	0	0	1	32	
御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八丈町	3	0	0	0	3	8	0	0	0	8	
青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小笠原村	父島	21	0	0	0	21	79	0	0	0	79
	母島	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
島しょ部計	1,157	0	0	122	1,035	599	81	0	146	372	

※液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

**表 町村別原因別建物被害結果(元禄型関東地震)**

町村名・島名	原因別建物全壊棟数					原因別建物半壊棟数					
	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	計	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊等	津波	
大島町	129	19	0	110	0	522	385	0	133	4	
利島村	24	0	0	24	0	36	4	0	32	0	
新島村	新島	19	0	0	18	1	25	0	0	24	1
	式根島	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
神津島村	1	0	0	0	1	6	0	0	0	6	
三宅村	117	0	0	0	117	13	0	0	0	13	
御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八丈町	2	0	0	0	2	5	0	0	0	5	
青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小笠原村	父島	2	0	0	0	2	20	0	0	0	20
	母島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島しょ部計	294	19	0	152	123	629	389	0	189	51	

※液状化による建物被害量は、東側ケースのみの計算結果

### (3) 出火・延焼による建物被害想定結果

- 南海トラフ巨大地震、元禄型関東地震の両方において、出火数が多いとされる時間帯で計算しても、揺れによる炎上出火件数は0件と想定される。仮に1件程度出火したとしても、消防団等が所有する消防ポンプ自動車や消防水利によって消火が可能であり、延焼につながるような出火は発生しないと想定される。
- このように今回の計算手法上は揺れに伴う出火・延焼の可能性は小さいが、津波浸水が想定される地域においては、北海道南西沖地震や東日本大震災において見られたような津波火災の発生の可能性は考えられる。

津波火災による被害の様相の参考として、過去の震災事例を以下にまとめる。

#### ■過去の震災事例に基づく津波火災の可能性

##### 1) 北海道南西沖地震における奥尻島での火災<sup>4)</sup>

###### ①火災概要

延焼棟数 189 (旅館・民宿を含む住宅 107 棟、寺社 2 棟。車庫・物置 69 棟、店舗 10 棟及び診療所 1 棟が全て全焼)、り災世帯 108 及び、り災者 311 人

###### ②出火原因

地震発生8分後の7月12日午後10時30分頃に青苗漁港の停泊中の漁船2隻から火災発生が確認される。その直後の22時35分頃青苗233番地付近の住宅から、一斉に火の手が上がった。13日午前0時15分頃には青苗160番地付近一帯の住宅から火災が発生し、おりからの風にあおられて、瞬く間に火勢は拡大した。

##### 2) 東日本大震災における津波火災<sup>5)</sup>

東日本大震災の津波起因火災の出火要因を以下のようにまとめることができる。

- 転倒・破壊されたコンビナート地区、埠頭エリア内の石油タンク等からの漏洩油やLPGの漏洩ガスへの着火・流動と市街地の家屋等への着火
- 住宅レベルの灯油タンクやLPGガスボンベの転倒、配管の破損による漏洩
- 火のついた家屋や火のついた瓦礫の塊が津波に流されて建物等に着火
- 船舶や車が出火し、これが流されて建物等に着火
- 流された車が家屋や他の車と衝突して出火して、車、家屋とも炎上
- 海水の塩分で鉄などの酸化が促進され、蓄熱による山積みの鉄くずからの自然発火

(4) 人的被害想定結果

津波による被害が全体的に大きく、島しょ部計としては津波ケース⑥の深夜、早期避難率が低い場合に、人的被害の死者数は最大の1,774人と想定される。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース①)**  
**【冬・昼間】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
死者数	島しょ部計	1,302	0	9	1,293	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	20	0	3	17	0	0	0	
		利島村	5	0	2	3	0	0	0	
		新島村	新島	876	0	1	875	0	0	0
			式根島	16	0	0	16	0	0	0
		神津島村	287	0	3	284	0	0	0	
		三宅村	56	0	0	56	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	12	0	0	12	0	0	0	
		青ヶ島村	1	0	0	1	0	0	0	
		小笠原村	父島	27	0	0	27	0	0	0
母島	2		0	0	2	0	0	0		
負傷者数	島しょ部計	67	11	9	47	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	19	9	3	7	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	23	0	1	22	0	0	0
			式根島	1	0	0	1	0	0	0
		神津島村	8	2	3	3	0	0	0	
		三宅村	1	0	0	1	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	2	0	0	2	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	8	0	0	8	0	0	0
母島	3		0	0	3	0	0	0		
重傷者数 (負傷者の内数)	島しょ部計	20	0	6	14	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	5	0	3	2	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	8	0	1	7	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	2	0	1	1	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	3	0	0	3	0	0	0
母島	1		0	0	1	0	0	0		

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース①)**  
**【冬・深夜】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	1,714	0	10	1,704	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	34	0	3	31	0	0	0	
		利島村	3	0	2	1	0	0	0	
		新島村	新島	1,298	0	2	1,296	0	0	0
			式根島	3	0	0	3	0	0	0
		神津島村	268	0	3	265	0	0	0	
		三宅村	55	0	0	55	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	17	0	0	17	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	32	0	0	32	0	0	0
			母島	4	0	0	4	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	94	14	11	69	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	21	12	3	6	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	47	0	2	45	0	0	0
			式根島	2	0	0	2	0	0	0
		神津島村	9	2	4	3	0	0	0	
		三宅村	1	0	0	1	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	3	0	0	3	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	6	0	0	6	0	0	0
			母島	3	0	0	3	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	30	0	8	22	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	5	0	3	2	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	17	0	2	15	0	0	0
			式根島	1	0	0	1	0	0	0
		神津島村	3	0	2	1	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	2	0	0	2	0	0	0
			母島	1	0	0	1	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース②)**  
**【冬・昼間】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	78	0	9	69	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	1	1	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	5	0	3	2	0	0	0	
		三宅村	1	0	0	1	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	4	0	0	4	0	0	0	
		青ヶ島村	1	0	0	1	0	0	0	
		小笠原村	父島	58	0	0	58	0	0	0
			母島	2	0	0	2	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	26	11	9	6	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	12	9	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	5	2	3	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	5	0	0	5	0	0	0
			母島	1	0	0	1	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	8	0	6	2	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	1	0	1	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	2	0	0	2	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース②)**  
**【冬・深夜】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	96	0	10	86	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	5	0	2	3	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	6	0	3	3	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	2	0	0	2	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	74	0	0	74	0	0	0
			母島	4	0	0	4	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	31	14	11	6	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	15	12	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	2	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	6	2	4	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	4	0	0	4	0	0	0
			母島	2	0	0	2	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	10	0	8	2	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	2	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	2	0	2	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	1	0	0	1	0	0	0
			母島	1	0	0	1	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑤)**  
**【冬・昼間】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	109	0	9	100	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	3	0	3	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	80	0	0	80	0	0	0
			母島	20	0	0	20	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	26	11	9	6	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	12	9	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	5	2	3	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	6	0	0	6	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	8	0	6	2	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	1	0	1	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	2	0	0	2	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑤)**  
**【冬・深夜】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	172	0	10	162	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	4	0	3	1	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	2	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	3	0	3	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	127	0	0	127	0	0	0
			母島	34	0	0	34	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	29	14	11	4	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	15	12	3	0	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	2	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	6	2	4	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	3	0	0	3	0	0	0
			母島	1	0	0	1	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	9	0	8	1	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	3	0	3	0	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	2	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	2	0	2	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	1	0	0	1	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)  
 (地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑥)  
 【冬・昼間】

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
死者数	島しょ部計	1,332	0	9	1,323	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	20	0	3	17	0	0	0	
		利島村	5	0	2	3	0	0	0	
		新島村	新島	877	0	1	876	0	0	0
			式根島	16	0	0	16	0	0	0
		神津島村	288	0	3	285	0	0	0	
		三宅村	57	0	0	57	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	14	0	0	14	0	0	0	
		青ヶ島村	1	0	0	1	0	0	0	
		小笠原村	父島	52	0	0	52	0	0	0
			母島	2	0	0	2	0	0	0
負傷者数	島しょ部計	63	11	9	43	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	19	9	3	7	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	23	0	1	22	0	0	0
			式根島	1	0	0	1	0	0	0
		神津島村	7	2	3	2	0	0	0	
		三宅村	1	0	0	1	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	4	0	0	4	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	6	0	0	6	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
重傷者数 (負傷者の内数)	島しょ部計	19	0	6	13	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	5	0	3	2	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	8	0	1	7	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	2	0	1	1	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	1	0	0	1	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	2	0	0	2	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑥)**  
**【冬・深夜】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	1,774	0	10	1,764	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	34	0	3	31	0	0	0	
		利島村	3	0	2	1	0	0	0	
		新島村	新島	1,299	0	2	1,297	0	0	0
			式根島	3	0	0	3	0	0	0
		神津島村	268	0	3	265	0	0	0	
		三宅村	55	0	0	55	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	23	0	0	23	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	86	0	0	86	0	0	0
			母島	3	0	0	3	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	90	14	11	65	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	21	12	3	6	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	45	0	2	43	0	0	0
			式根島	2	0	0	2	0	0	0
		神津島村	8	2	4	2	0	0	0	
		三宅村	1	0	0	1	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	7	0	0	7	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	3	0	0	3	0	0	0
			母島	1	0	0	1	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	29	0	8	21	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	5	0	3	2	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	16	0	2	14	0	0	0
			式根島	1	0	0	1	0	0	0
		神津島村	3	0	2	1	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	2	0	0	2	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	1	0	0	1	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)  
 (地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑧)  
 【冬・昼間】

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
死者数	島しょ部計	1,192	0	9	1,183	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	30	0	3	27	0	0	0	
		利島村	4	0	2	2	0	0	0	
		新島村	新島	778	0	1	777	0	0	0
			式根島	13	0	0	13	0	0	0
		神津島村	279	0	3	276	0	0	0	
		三宅村	49	0	0	49	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	3	0	0	3	0	0	0	
		青ヶ島村	1	0	0	1	0	0	0	
		小笠原村	父島	35	0	0	35	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
負傷者数	島しょ部計	59	11	9	39	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	22	9	3	10	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	20	0	1	19	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	9	2	3	4	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	1	0	0	1	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	5	0	0	5	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
重傷者数 (負傷者の内数)	島しょ部計	19	0	6	13	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	7	0	3	4	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	7	0	1	6	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	2	0	1	1	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	2	0	0	2	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(南海トラフ巨大地震)**  
**(地震動:東側ケース+経験的手法、津波:ケース⑧)**  
**【冬・深夜】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	1,749	0	10	1,739	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	37	0	3	34	0	0	0	
		利島村	3	0	2	1	0	0	0	
		新島村	新島	1,313	0	2	1,311	0	0	0
			式根島	3	0	0	3	0	0	0
		神津島村	256	0	3	253	0	0	0	
		三宅村	53	0	0	53	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	3	0	0	3	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	81	0	0	81	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	78	14	11	53	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	21	12	3	6	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	38	0	2	36	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	12	2	4	6	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	4	0	0	4	0	0	0
			母島	1	0	0	1	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	26	0	8	18	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	5	0	3	2	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	15	0	2	13	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	4	0	2	2	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	1	0	0	1	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(元禄型関東地震)**  
**【冬・昼間】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	90	0	9	81	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	10	0	6	4	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	4	0	0	4	0	0	0
		神津島村	3	0	0	3	0	0	0	
		三宅村	66	0	0	66	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	4	0	0	4	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	0	0	0	0	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
<b>負傷者数</b>	島しょ部計	78	62	12	4	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	72	61	9	2	0	0	0	
		利島村	3	1	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	1	1	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	0	0	0	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	1	0	0	1	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>	島しょ部計	8	0	7	1	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	6	0	5	1	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	1	0	1	0	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	0	0	0	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	0	0	0	0	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

**表 町村別原因別死者数・負傷者数(元禄型関東地震)**  
**【冬・深夜】**

		計	揺れ	急傾斜地 崩壊等	津波	屋外転倒 ・落下物	火災	屋内 収容物 (参考値)		
<b>死者数</b>	島しょ部計	165	0	10	155	0	0	0		
	町村別・島別	大島町	15	0	7	8	0	0	0	
		利島村	2	0	2	0	0	0	0	
		新島村	新島	2	0	1	1	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	2	0	0	2	0	0	0	
		三宅村	143	0	0	143	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	1	0	0	1	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	0	0	0	0	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
		<b>負傷者数</b>	島しょ部計	100	77	13	10	0	0	1
町村別・島別	大島町		89	76	9	4	0	0	1	
	利島村		3	1	2	0	0	0	0	
	新島村		新島	5	0	2	3	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
	神津島村		0	0	0	0	0	0	0	
	三宅村		0	0	0	0	0	0	0	
	御蔵島村		0	0	0	0	0	0	0	
	八丈町		0	0	0	0	0	0	0	
	青ヶ島村		0	0	0	0	0	0	0	
	小笠原村		父島	3	0	0	3	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0
	<b>重傷者数 (負傷者の内数)</b>		島しょ部計	11	1	7	3	0	0	0
町村別・島別		大島町	6	1	4	1	0	0	0	
		利島村	1	0	1	0	0	0	0	
		新島村	新島	3	0	2	1	0	0	0
			式根島	0	0	0	0	0	0	0
		神津島村	0	0	0	0	0	0	0	
		三宅村	0	0	0	0	0	0	0	
		御蔵島村	0	0	0	0	0	0	0	
		八丈町	0	0	0	0	0	0	0	
		青ヶ島村	0	0	0	0	0	0	0	
		小笠原村	父島	1	0	0	1	0	0	0
			母島	0	0	0	0	0	0	0

\*津波による人的被害は、最大被害となる「早期避難者比率が低い場合」

\*死者数には、行方不明者数を含む。

\*屋内収容物被害は参考値のため、合計には含めない。

### 5. 3 津波による人的被害の想定結果（詳細）

人的被害の想定のうち、津波を原因とするものは、避難に関する条件を以下のとおり複数設定して計算を行った。これについて、南海トラフ巨大地震及び元禄型関東地震それぞれの死者数の結果を島ごとに示す。なお、ここでは各ケース最大の浸水域を想定して計算を行ったが、実際の津波は繰り返し到達するため、気象庁の警報が解除されるまでは浸水域内に戻らず避難を続けることが重要である。

（凡例）

- ・歩行速度は昼 2.65km/時、深夜は昼の 8 割（2.12km/時）
- ・「早期避難率低」：  
地震発生後早期に避難開始（昼は地震発生後 5 分、深夜は地震発生後 10 分で避難開始；以下同じ）する人の割合が 2 割の場合
- ・「早期避難率高」：  
地震発生後早期に避難開始する人の割合が 7 割の場合
- ・「早期避難率高＋呼び掛け」：  
地震発生後早期に避難開始する人の割合が 7 割の場合であって、更に的確な津波情報・避難情報の伝達や呼び掛け等によって切迫避難あるいは避難しない人がいなくなる場合
- ・「避難開始迅速化」：  
地震発生後全員が早期に避難開始する場合
- ・「更に避難迅速化」：  
深夜発災ケースであるが、全員が昼と同様に地震発生後 5 分で避難開始し、時速 2.65km で避難する場合

#### 1) 大島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 ＋呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	17	6	0	0	
		冬・深夜	31	11	8	1	0
	ケース②	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	1	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	17	6	0	0	
		冬・深夜	31	11	8	1	0
ケース⑧	冬・昼間	27	9	0	0		
	冬・深夜	34	12	2	0		
元禄型関東地震		冬・昼間	4	1	1	0	
		冬・深夜	8	3	3	1	0

## 2) 利島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	3	1	0	0	
		冬・深夜	1	0	0	0	
	ケース②	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	3	1	0	0	
		冬・深夜	1	0	0	0	
ケース⑧	冬・昼間	2	1	0	0		
	冬・深夜	1	0	0	0		
元禄型関東地震		冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	

## 3) 新島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	875	322	266	0	
		冬・深夜	1,296	626	626	210	0
	ケース②	冬・昼間	1	0	0	0	
		冬・深夜	3	1	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	876	322	266	0	
		冬・深夜	1,297	629	629	212	0
ケース⑧	冬・昼間	777	281	204	0		
	冬・深夜	1,311	593	593	154	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	1	0	0	0	

#### 4) 式根島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	16	6	6	0	
		冬・深夜	3	1	1	0	
	ケース②	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	16	6	6	0	
		冬・深夜	3	1	1	0	
ケース⑧	冬・昼間	13	4	4	0		
	冬・深夜	3	1	1	0		
元禄型関東地震		冬・昼間	4	1	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	

#### 5) 神津島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	284	107	107	0	
		冬・深夜	265	111	111	18	0
	ケース②	冬・昼間	2	1	0	0	
		冬・深夜	3	1	1	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	285	107	107	0	
		冬・深夜	265	111	111	18	0
ケース⑧	冬・昼間	276	103	103	0		
	冬・深夜	253	98	98	4	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	3	1	0	0	
		冬・深夜	2	1	0	0	

6) 三宅島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	56	18	0	0	
		冬・深夜	55	17	0	0	
	ケース②	冬・昼間	1	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	57	19	0	0	
		冬・深夜	55	17	0	0	
	ケース⑧	冬・昼間	49	16	0	0	
		冬・深夜	53	16	0	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	66	22	5	0	
		冬・深夜	143	53	53	0	

7) 御蔵島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース②	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑧	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	

8) 八丈島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	12	3	0	0	
		冬・深夜	17	6	0	0	
	ケース②	冬・昼間	4	2	0	0	
		冬・深夜	2	1	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	14	5	0	0	
		冬・深夜	23	8	0	0	
	ケース⑧	冬・昼間	3	1	0	0	
		冬・深夜	3	0	0	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	4	1	0	0	
		冬・深夜	1	0	0	0	

9) 青ヶ島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	1	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース②	冬・昼間	1	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	1	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
	ケース⑧	冬・昼間	1	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	

10) 父島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	27	9	0	0	
		冬・深夜	32	11	0	0	
	ケース②	冬・昼間	58	19	0	0	
		冬・深夜	74	25	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	80	27	0	0	
		冬・深夜	127	42	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	52	17	0	0	
		冬・深夜	86	29	0	0	
	ケース⑧	冬・昼間	35	12	0	0	
		冬・深夜	81	27	0	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	

11) 母島

			早期避難率低	早期避難率高	早期避難率高 +呼び掛け	避難開始迅速化	更に避難迅速化
南海トラフ 巨大地震	ケース①	冬・昼間	2	1	0	0	
		冬・深夜	4	1	0	0	
	ケース②	冬・昼間	2	1	0	0	
		冬・深夜	4	1	0	0	
	ケース⑤	冬・昼間	20	7	0	0	
		冬・深夜	34	11	0	0	
	ケース⑥	冬・昼間	2	1	0	0	
		冬・深夜	3	1	0	0	
	ケース⑧	冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	
元禄型関東地震		冬・昼間	0	0	0	0	
		冬・深夜	0	0	0	0	

## 6 島しょ部における共通的な被害様相

### 6. 1 島しょ部の共通的特徴

#### (1) 人口構成

高齢化率は各町村でばらつきがあり、10%～35%程度(23区平均は20%程度)である。三宅村(35.3%)、新島村(34.5%)、八丈町(32.1%)及び大島町(31.7%)の4町村が高齢化率30%を超えている。(平成22年国勢調査)

**表 島しょ部町村別高齢化率(平成22年国勢調査)**

町村名	島名	高齢化率	人口
大島町	大島	31.7%	8,461人
利島村	利島	20.3%	341人
新島村	新島	34.5%	2,351人
	式根島		532人
神津島村	神津島	27.4%	1,889人
三宅村	三宅島	35.3%	2,676人
御蔵島村	御蔵島	13.8%	348人
八丈町	八丈島	32.1%	8,231人
青ヶ島村	青ヶ島	10.5%	201人
小笠原村	父島	9.2%	1,880人
	母島		491人

#### (2) 観光客

- 多くの観光客が夏季を中心に島しょ部を訪れているが、大島、父島、母島のように比較的季節ごとに分散している島もある。
- 離島という立地環境から、アクセスの手段は航路や航空路に限られる。

**表 1日当たり滞在観光客数(推定値)**

町村名	島名	2月			8月		
		最小	平均	最大	最小	平均	最大
大島町	大島	560	1,110	1,920	810	1,270	2,000
利島村	利島	数人	数人	10	10	20	50
新島村	新島	100	150	190	530	670	900
	式根島	40	50	70	700	900	1,110
神津島村	神津島	50	90	190	480	720	1,070
三宅村	三宅島	90	110	170	170	280	410
御蔵島村	御蔵島	数人	数人	10	120	170	180
八丈町	八丈島	190	300	570	900	1,190	1,770
青ヶ島村	青ヶ島	数人	数人	数人	数人	数人	数人
小笠原村	父島	150	180	260	370	450	560
	母島	80	100	150	70	90	120

\* 5人未満の場合は、数人と表記

### (3) ライフライン

- 電力：式根島を除く有人島に内燃力（ディーゼル）発電所があるが、式根島は、海底ケーブルによる新島からの送電に依存している。八丈島では内燃力（ディーゼル）発電所に加えて地熱発電所、風力発電所があり、御蔵島では内燃力（ディーゼル）発電所に加えて水力発電所がある。
- 上水道：ほとんどの島は、自噴式であるが、式根島は新島から送水している。
- ガス：全ての有人島は、プロパンガスを本州から定期搬入している。
- 通信：本州と各島との通信伝送路は、海底ケーブルと無線に依存している。

### (4) 交通

- 船：一日当たり1～数便。小笠原諸島（父島）は週1便。（悪天候による欠航あり）
- 飛行機：一日当たり1～数便（悪天候による欠航あり）。利島、式根島、御蔵島、青ヶ島、父島及び母島には空港がない。
- 島内交通：車及びバスが中心である。鉄道はない。

### (5) 生活環境

- 島によるが本州との物流が週に数便（商用、郵便・宅配便等）程度であり、生活物資等のサプライチェーンは本州への依存度が高い。
- 島内の移動は自動車を中心である。
- 都市部と比べてスーパー・小売店舗が少ない（島内の食料流通ストックが少ない）。
- 島内の医療は診療所が中心である（高度医療が必要なときは本州へ搬送）。

### (6) 産業

- 観光業を中心に第三次産業が8割程度である。農林業、漁業など第一次産業の割合も比較的高い（数%～10数%）。

## 6. 2 島しょ部における共通的な被害様相

---

### (1) ライフライン施設被害

- 内燃力（ディーゼル）発電所や送配電線の被災により、島内の電力供給が一定期間停止する可能性がある。
- 内燃力（ディーゼル）発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。
- 港湾施設や燃料受入設備の被災により本州からのガスや燃料の搬入が途絶する可能性がある。
- 海底通信ケーブルの被災により通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。
- ごみ処理施設、し尿処理施設が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

### (2) 交通施設、主要施設等被害

- 津波や停電によって港湾施設や空港が平常どおり利用できず、中長期にわたり本州との往復交通手段が制限される可能性がある。
- 津波やがけ崩れにより、島内の道路で通行できなくなる区間が発生する可能性がある。
- 車両の被災や燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。
- 港湾施設の被災、航路障害物等により、海運による生活物資の搬入が途絶する可能性がある。
- 多数の負傷者の発生により、島内診療所の受入れ能力を超える可能性がある。診療所が被災した場合は更に深刻化するおそれがある。
- 空港の被災（停電含む）により、重傷者等の本州への搬送が平常時よりも遅れる可能性がある。

### (3) 複合災害

#### 1) 地震災害と火山災害が同時または時間差で発生する場合に可能性のある被害様相

項目		内容
被害様相	地震災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>揺れや津波による被害（人的被害、建物被害、火災被害、ライフライン被害）等</li> </ul>
	火山災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>降灰、溶岩流、火砕流、土石流等による被害（人的被害、建物被害、火災被害、長期避難、全島避難）等</li> <li>降灰によるインフラ・電子機器への影響、電波障害、風評被害等</li> <li>噴火発生から鎮静までの事象進展が予測困難、影響期間が中長期（中長期の域外避難を強いられる可能性）等</li> </ul>
複合要因による外力発生例		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の揺れによる被害に加えて、火山灰の重みによる新たな建物倒壊 等</li> </ul>
地震災害対応への影響 (火山災害による活動制約)		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害、火山災害の両方における車両や人員等の確保困難</li> <li>停電や通信途絶による各種情報伝達の遅れ</li> <li>立入禁止区域内の地域の被害把握及び救助遅れ</li> <li>火山噴火のための広域避難による避難所不足</li> <li>降灰による飲料水や飲食物への影響に伴い島内の生活物資が不足</li> <li>航空機飛行困難による上空からの地震被害状況把握の遅れ</li> <li>地震災害において設置された避難所が火山災害により被災、または二次避難の発生</li> <li>降灰による救助・救出作業の遅れ</li> <li>降灰による応急作業資機材の故障</li> <li>中長期にわたる立入禁止区域（全島避難の場合は島全体）の復旧・復興の困難 等</li> </ul>
火山災害対応への影響 (地震災害による活動制約)		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害、火山災害の両方における車両や人員等の確保困難</li> <li>停電や通信途絶による各種情報伝達の遅れ</li> <li>道路被害や車両確保困難による避難実施の遅れ</li> <li>地震による機器故障、停電、燃料不足及び通信途絶並びに道路被害による火山観測活動の実施困難</li> <li>地震の影響を受けての要員参集困難による活動開始の遅れ</li> <li>建物倒壊等による避難者の受け入れ先避難所の不足</li> <li>港湾被災による船舶での島外避難の実施の遅れ</li> <li>地震による混乱（港湾被災、通信途絶、道路被害等）で避難者への救援物資が不足</li> <li>道路被害や車両確保困難による降灰除去作業や土砂災害緊急調査の困難</li> <li>地震被害にあったインフラ、ライフラインの復旧遅れによる火山災害の復旧活動の遅れ 等</li> </ul>

- ※ 地震と火山噴火は、複合災害としての発生頻度は小さいことに留意する必要がある。
- ※ 有史以降の噴火歴がなく、火山災害の発生可能性が極めて低い島（利島、式根島、御蔵島、父島及び母島）もあることに留意する必要がある。

## 2) 地震災害と台風災害が同時または時間差で発生する場合に可能性のある被害様相

項目		内容
被害様相	地震災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>揺れや津波による被害（人的被害、建物被害、ライフライン被害）等</li> </ul>
	台風災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>暴風・豪雨による被害（人的被害、建物被害、ライフライン被害）等、悪天候</li> <li>影響期間が短期 等</li> </ul>
複合要因による外力発生		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震や津波による海岸・河川施設の流失・損壊後に、台風による河川増水や高潮で被害が増大</li> <li>地震で緩んだ山腹斜面に大雨が降ることによる急傾斜地崩壊や山腹崩壊、土砂災害の発生（大規模崩壊の危険性が増大） 等</li> </ul>
地震災害対応への影響 （台風災害による活動制約）		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害、台風災害の両方における車両や人員等の確保困難</li> <li>悪天候による救助・救出作業の遅れ</li> <li>悪天候による航空機飛行困難、上空からの地震被害状況把握の遅れ</li> <li>地震災害において設置された避難所が台風災害により被災、または二次避難の発生</li> <li>悪天候による救援物資到着の遅れ 等</li> </ul>
台風災害対応への影響 （地震災害による活動制約）		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害、台風災害の両方における車両や人員等の確保困難</li> <li>停電や通信途絶による各種情報伝達の遅れ</li> <li>道路被害や車両確保困難による避難実施の遅れ</li> <li>地震の影響を受けての要員参集困難による活動開始の遅れ</li> <li>建物倒壊等による避難者の受け入れ先避難所の不足</li> <li>地震による混乱（機器故障、停電、燃料不足、通信途絶、道路被害等）で避難者への救援物資が不足</li> <li>道路被害や車両確保困難による土砂災害緊急調査の困難</li> <li>地震被害にあったインフラ、ライフラインの復旧遅れによる台風災害の復旧活動の遅れ 等</li> </ul>

※ 地震と台風には直接的な因果関係がなく、複合災害としての発生頻度は小さいことに留意する必要がある。

### （4）その他の被害（避難者の発生、観光客等の被災等）

- 建物の倒壊や断水等により、避難者が多く発生する可能性がある。また、航路や航空路が途絶えることで滞在中の観光客が帰宅困難となり、観光客の待機による避難所の不足や物資の不足等の問題が顕在化する可能性がある。
- 高齢者等（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する。
- 土地勘のない観光客の津波からの逃げ遅れやマリンレジャー（海水浴、ダイビング、釣り）中の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。
- オープンスペースの不足により、物資搬送拠点や応急仮設住宅用地の確保困難が顕在化する。
- 漁業施設や観光資源などの被災時には、経済的な被害の発生が懸念される。

## 7 各島の被害想定結果

---

- 本項では、各島の定量評価、定性評価をまとめる。
- 定性評価は、各島（有人島）において人的被害が最大となる地震動・津波ケースを想定し、国内の島しょ部における既往被害事例等を参考として考えられる被害様相を記述する。
- 被害想定結果（最大ケース）は、元禄型関東地震での結果を含む。
- 定性的な被害様相を記述する主な項目は、以下のとおりとする。この他、各島において特筆すべき事項があれば、その他の項目に記述する。

- ライフライン施設被害
- 交通施設（港湾等）、主要施設等被害
- その他の被害

- なお、詳しくは「5. 3 津波による人的被害の想定結果（詳細）」のとおりであるが、迅速に避難することができれば、全ての島で計算上は津波による人的被害ゼロの可能性はある。

## (1) 伊豆大島 (大島町)

基本情報			
人口	8,461 人 (平成 22 年国勢調査)	面積	91.06km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆大島は東京の南方海上約 110km に位置し、伊豆諸島の中で最も大きな島である。島の中央には三原山がそびえ、島の東側は断崖絶壁となって海に落ち込み、西側は勾配がやや穏やかで平地が開けている。中央火口原 (カルデラ) を除き全島森林におおわれている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース⑧)	
建物棟数		5,988 棟 (うち木造 5,092 棟、非木造 896 棟)	
建物被害	全壊	41 棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	31 棟	
	(うち津波)	10 棟	
	半壊	159 棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	30 人	37 人
	(うち津波) ※1	27 人	34 人
	負傷者	22 人	21 人
	(うち重傷者)	7 人	5 人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・最大震度はほとんどが 5 強で、一部が 6 弱程度であり、上水道の被害 (断水) が一部の住宅や施設等で生じる可能性がある。			
・下水処理場はないが、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・大島発電所では津波浸水の発生可能性は低い、最大震度は 5 強程度 (元禄型関東地震では 6 弱程度) であることから運転停止となる可能性は低い。			
・津波浸水するエリアに電柱 (電線) 等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力 (ディーゼル) 発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内は LP ガス (プロパン) での供給であること、最大震度はほとんどが 5 強で、一部が 6 弱程度であることから LP ガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することにより LP ガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			

[通信]

- ・津波による海底通信ケーブルの切断により通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。
- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・元町港・元町漁港で最大約10m、岡田港・岡田漁港で最大約9m、波浮港で最大約7m、野増漁港で最大約14m、差木地漁港で最大約9m、泉津漁港で最大約4mの津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・大島空港は想定される津波浸水域には含まれず、最大震度は5強程度であることから、被害は限定的であり、滑走路点検の後、離発着陸できる可能性が高いと想定される。

[道路]

- ・港付近や岩場近くの津波浸水した道路が通行困難となる。また、津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。
- ・山間部では崖崩れ等により、通行できなくなる区間が生じる可能性がある。

[島内交通]

- ・燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、診療所等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性はほとんどない。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが急傾斜地崩壊等と津波によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約1,920人、8月（夏）で1日当たり最大約2,000人滞在している。このことから、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。

## (2) 利島 (利島村)

基本情報			
人口	341 人 (平成 22 年国勢調査)	面積	4.12 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆利島は、東京の南方海上約 130km に位置し、島の中央に宮塚山を頂く円錐形の島である。地質は玄武岩を主体に形成され、全島椿林でおおわれている。集落は、宮塚山の中腹北西寄りの比較的緩傾斜の沢地に形成されている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース①⑥)	
建物棟数		243 棟 (うち木造 171 棟、非木造 72 棟)	
建物被害	全壊	26 棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	24 棟	
	(うち津波)	2 棟	
	半壊	33 棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	5 人	3 人
	(うち津波) ※1	3 人	1 人
	負傷者	2 人	2 人
	(うち重傷者)	1 人	1 人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・最大震度が 5 強程度であることから上水道の被害はほとんど生じない。			
・下水処理場はないが、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・利島発電所は津波浸水域に含まれておらず、最大震度は 5 強程度であることから運転停止となる可能性は低い。			
・津波浸水するエリアに電柱 (電線) 等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力 (ディーゼル) 発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内は LP ガス (プロパン) での供給であること、最大震度が 5 強程度であることから LP ガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することにより LP ガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			

[通信]

- ・津波による海底通信ケーブルの切断で通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。
- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・利島港で最大約 13m の津波浸水深となり、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・利島ヘリポートは津波浸水の可能性は低く、最大震度は5強程度であることから、被害はほとんど生じない。

[道路]

- ・利島港付近や岩場近くの津波浸水した道路が通行困難となる。また、津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。
- ・山間部では崖崩れ等により、通行できなくなる区間が生じる可能性がある。地震動や液状化による被害はほとんど生じない。

[島内交通]

- ・燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、診療所等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性はほとんどない。地震動や液状化による被害が生じる可能性もほとんどない。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが急傾斜地崩壊等によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、津波と急傾斜地崩壊等によると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・地震動・液状化による建物被害はあまり見られないが、ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約 10 人、8月（夏）で1日当たり最大約 50 人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。

### (3) 新島 (新島村)

基本情報			
人口	2,351 人 (平成 22 年国勢調査)	面積	23.91 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆新島は東京の南方海上 150km に位置し、北側の宮塚山と、南側の向山の二つの火山が接合した島である。集落は、その中間の平地部と北部の西海岸沿いに形成されている。地質は流紋岩を主体に形成され、島の東側は白ママとよばれる海食崖が続き、青い海と美しいコントラストを成している。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース⑧)	
建物棟数		1,684 棟 (うち木造 770 棟、非木造 914 棟)	
建物被害	全壊	758 棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	22 棟	
	(うち津波)	736 棟	
	半壊	195 棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	778 人	1,313 人
	(うち津波) ※1	777 人	1,311 人
	負傷者	20 人	38 人
	(うち重傷者)	7 人	15 人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・島内の地下水を汲み上げて利用していること、最大震度が5強程度であることから津波浸水エリア以外の上水道の被害はあまり生じない可能性が高い。			
・下水処理場、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・新島発電所では最大約7mの津波浸水が生じ、建物及び電気設備の被害が生じて運転停止となる可能性がある。			
・津波浸水するエリアに電柱(電線)等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力(ディーゼル)発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内はLPガス(プロパン)での供給であること、最大震度が5強程度であることからLPガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することによりLPガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			
[通信]			
・津波による海底通信ケーブルの切断で通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル(電話線等)も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。			

- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

#### ●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

・新島港で最大約 23m、若郷漁港で最大約 24m、羽伏漁港で最大約 10m の津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。

- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

・新島空港は想定される津波浸水域には含まれず、最大震度は 5 強程度であることから、被害は限定的であり、滑走路点検の後、離発着陸できる可能性が高いと想定される。

[道路]

- ・津波により被災した場合、ほぼ全ての浸水した道路が通行困難となる。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。
- ・山間部では崖崩れ等により、通行できなくなる区間が生じる可能性がある。

[島内交通]

- ・車両の被災や燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

・大島支庁新島出張所で最大約 5 m、新島村役場若郷支所は最大約 8 m の津波浸水があり、行政機能に支障が生じる可能性がある。新島村役場は最大数 cm 程度の津波浸水に見舞われると想定される。

・学校や避難所、診療所等では、新島中学校（最大約 2 m）、本村診療所（最大約 0.3 m）、勤労福祉会館（最大約 4 m）、老人福祉センター（最大約 1 m）、住民センター（最大約 0.2 m）、若郷会館（最大約 8 m）、若郷保育園（休園）（最大約 7 m）、旧若郷福祉センター（最大約 9 m）、学校給食共同調理場（最大約 4 m）が津波浸水に見舞われると想定される。

#### ●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが津波によるものであり、急傾斜地崩壊等によるものも多いと想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※ 1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・地震動・液状化による建物被害はあまり見られないが、ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が 2 月（冬）で 1 日当たり最大約 190 人、8 月（夏）で 1 日当たり最大約 900 人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※ 1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を 0 人に低減できる可能性がある。

#### (4) 式根島 (新島村)

基本情報			
人口	532人 (平成22年国勢調査)	面積	3.92 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆式根島は新島の南方6kmに位置する台地状の島である。流紋岩を主体に形成され、出入りに富んだ海岸と白砂青松が美しい景観を形作っている。島内の集落は、東部に広がっている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース①⑥)	
建物棟数		490棟 (うち木造416棟、非木造74棟)	
建物被害	全壊	16棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	2棟	
	(うち津波)	14棟	
	半壊	13棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	16人	3人
	(うち津波)※1	16人	3人
	負傷者	1人	2人
	(うち重傷者)	0人	1人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・新島からの海底送水を利用していることから津波により水道管が破断し中長期にわたり供給が停止する可能性がある。			
・下水処理場はないが、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・新島からの送電に頼っている状況であり、海底ケーブルの断線や津波浸水するエリアに電柱(電線)等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・新島発電所では最大約7mの津波浸水が生じ、建物及び電気設備の被害が生じて運転停止となる可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内はLPガス(プロパン)での供給であること、最大震度が5強程度であることからLPガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することによりLPガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			
[通信]			
・津波による海底通信ケーブルの切断で通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル(電話線等)も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。			

- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・式根島港で最大約 10m、小浜漁港で最大約 23m、野伏漁港で最大約 22m の津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・式根島ヘリポートは津波浸水の可能性は低く、最大震度は5強程度であることから、被害はほとんど生じない。

[道路]

- ・津波により被災した場合、ほぼ全ての浸水した道路が通行困難となる。また、津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。
- ・山間部では崖崩れ等により、通行できなくなる区間が生じる可能性がある。

[島内交通]

- ・車両の被災や燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、診療所等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性はほとんどない。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが津波（一部、急傾斜地崩壊等）によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・地震動・液状化による建物被害はあまり見られないが、ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約70人、8月（夏）で1日当たり最大約1,110人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\*観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。

## (5) 神津島 (神津島村)

基本情報			
人口	1,889 人 (平成 22 年国勢調査)	面積	18.87 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆神津島は、東京の南方海上約 170km に位置する、伊豆諸島のほぼ中央に位置するひょうたん型の島である。中央には天上山がそびえ、島全体が峻嶒で平地に乏しく、特に東側では断崖絶壁となって海に落ち込み、深く入り組んだ海岸線が美しい景観をかたちづくっている。島内の集落は、西側海岸の神津沢沿いに形成されている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース⑥)	
建物棟数		1,540 棟 (うち木造 1,087 棟、非木造 453 棟)	
建物被害	全壊	224 棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	42 棟	
	(うち津波)	182 棟	
	半壊	75 棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	288 人	268 人
	(うち津波) ※1	285 人	265 人
	負傷者	7 人	8 人
	(うち重傷者)	2 人	3 人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・島内の地下水を汲み上げて利用していること、最大震度が 5 強程度であることから津波浸水エリア以外の上水道の被害はほとんど生じない (湧き水も豊富である)。			
・農業集落排水処理場では最大約 14m の津波浸水が生じ、建物及び設備に被害が生じること等により、中長期にわたり水洗トイレ等の下水道が使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・神津島発電所では最大約 9m の津波浸水が生じ、建物及び電気設備の被害が生じて運転停止となる可能性がある。			
・津波浸水するエリアに電柱 (電線) 等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力 (ディーゼル) 発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内は LP ガス (プロパン) での供給であること、最大震度が 5 強程度であることから LP ガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することにより LP ガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			

[通信]

- ・津波による海底通信ケーブルの切断で通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。
- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・神津島港で最大約 25m、三浦漁港（多幸湾）で最大約 14m の津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・神津島空港は想定される津波浸水域には含まれず最大震度は5強程度であることから、被害は限定的であり、滑走路点検の後、離発着陸できる可能性が高いと想定される。

[道路]

- ・津波により被災した場合、ほぼ全ての浸水した道路が通行困難となる。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。山間部では崖崩れ等により、通行できなくなる区間が生じる可能性がある。

[島内交通]

- ・車両の被災や燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・大島支庁神津島出張所で最大約 1 m の津波浸水に見舞われる可能性がある。
- ・温泉保養センター（最大約 7m）、長浜海岸海水浴場（最大約 19m）、赤崎海岸海水浴場（最大約 15m）、ドンタクハウス（最大約 10m）は津波浸水に見舞われる可能性がある。
- ・上記以外の役場や避難所、診療所等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性は低い。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが津波と急傾斜地崩壊等によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・地震動・液状化による建物被害はあまり見られないが、ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約 190 人、8月（夏）で1日当たり最大約 1,070 人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。

## (6) 三宅島 (三宅村)

基本情報			
人口	2,676 人 (平成 22 年国勢調査)	面積	55.50 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
<p>◆三宅島は、東京の南方海上約 180km に位置するほぼ円形の島である。玄武岩主体に形成され、島の中央にある複式火山の雄山の海岸線まで美しい裾野を広げているが、海岸はほとんど断崖で湾入部はない。頂上及び山腹に多数の火口があり、応徳 2 年 (1085 年) 以降平成 12 年までの間に記録あるものだけで 15 回の噴火を繰り返している。島内には、海岸沿いに神着、伊豆、伊ヶ谷、阿古、坪田の 5 つの集落が形成されている。</p>			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		元禄型関東地震	
建物棟数		1,911 棟 (うち木造 1,692 棟、非木造 219 棟)	
建物被害	全壊	117 棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	0 棟	
	(うち津波)	117 棟	
	半壊	13 棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	66 人	143 人
	(うち津波) ※1	66 人	143 人
	負傷者	0 人	0 人
	(うち重傷者)	0 人	0 人
定性的な被害様相			
<p>●ライフライン施設被害</p> <p>[上下水道]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最大震度が 5 強程度であることから上水道の被害はほとんど生じない。</li> <li>・下水処理場はないが、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。</li> <li>・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。</li> </ul> <p>[電力]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三宅島発電所では元禄型関東地震で最大約 8m(南海トラフ巨大地震では最大約 6m)の津波浸水が生じ、建物及び電気設備の被害が生じて運転停止となる可能性がある。</li> <li>・津波浸水するエリアに電柱 (電線) 等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。</li> <li>・内燃力 (ディーゼル) 発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。</li> </ul> <p>[ガス]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ガスの供給はなく島内は LP ガス (プロパン) での供給であること、最大震度が 5 強程度であることから LP ガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。</li> <li>・港湾施設が被災することにより LP ガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。</li> </ul>			

[通信]

- ・津波による海底通信ケーブルの切断で通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。
- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・大久保港で最大約 13m、湯の浜漁港で最大約 12m、三池港で最大約 11m、坪田漁港で最大約 10m、阿古漁港で最大約 11m、伊ヶ谷漁港で最大約 17m の津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・三宅島空港は想定される津波浸水域には含まれず、最大震度は 5 強程度であることから、被害は限定的であり、滑走路点検の後、離発着陸できる可能性が高いと想定される。

[道路]

- ・津波により被災した場合、ほぼ全ての浸水した道路が通行困難となる。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。
- ・山間部では崖崩れ等により、通行できなくなる区間が生じる可能性がある。

[島内交通]

- ・車両の被災や燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、診療所等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性はほとんどない。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、元禄型関東地震で最大となり、そのほとんどが津波によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・地震動・液状化による建物被害はあまり見られないが、ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が 2 月（冬）で 1 日当たり最大約 170 人、8 月（夏）で 1 日当たり最大約 410 人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を 0 人に低減できる可能性がある。

## (7) 御蔵島 (御蔵島村)

基本情報			
人口	348人 (平成22年国勢調査)	面積	20.58 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆御蔵島は東京の南方海上約200kmに位置するほぼ円形をなした鐘上の島である。御山を中心に島全体が一つ山岳の様相を呈し、海岸は海食のため直立した断崖が多く、雄大な景観をなしている。島内の集落は北西部の海岸沿いに形成されている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		—	
建物棟数		183棟 (うち木造171棟、非木造12棟)	
建物被害	全壊	0棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	0棟	
	(うち津波)	0棟	
	半壊	0棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	0人	0人
	(うち津波)	0人	0人
	負傷者	0人	0人
	(うち重傷者)	0人	0人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大震度が5弱程度であることから上水道の被害はほとんど生じない。</li> <li>・下水処理場はないが、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。</li> <li>・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。</li> </ul>			
[電力]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・御蔵島発電所(内燃力(ディーゼル)、水力)は津波浸水域に含まれておらず、最大震度は5弱程度であることから運転停止となる可能性は低い。</li> <li>・内燃力(ディーゼル)発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、供給力が低下することは有り得る。</li> </ul>			
[ガス]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ガスの供給はなく島内はLPガス(プロパン)での供給であること、最大震度が5弱程度であることからLPガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。</li> <li>・港湾施設が被災することによりLPガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。</li> </ul>			
[通信]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波による海底通信ケーブルの切断等で通信が途絶する可能性がある。震度5弱程度であることから島内の通信ケーブル(電話線等)の断線が起こる可能性は低い。</li> </ul>			

- ・電話は輻輳によりつながりにくくなる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・御蔵島港で最大約6mの津波浸水深となり、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。

- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・御蔵島ヘリポートは津波浸水の可能性は低く、最大震度は5弱程度であることから、被害はほとんど生じない。

[道路]

- ・港付近や岩場近くの津波浸水した道路が通行困難となる。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。

[島内交通]

- ・燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、診療所等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性はほとんどない。

●その他

[建物被害・人的被害]

- ・建物被害・人的被害は、ほとんど発生しないと想定される。
- ・高齢者（災害時要援護者）の避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約10人、8月（夏）で1日当たり最大約180人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

## (8) 八丈島 (八丈町)

基本情報			
人口	8,231人 (平成22年国勢調査)	面積	72.62 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆八丈島は東京の南方約290kmに位置するまゆ形の島である。両端は三原山と八丈富士の両山系の間接地帯はなだらかな傾斜面または平坦地となっている。島内の集落は、檜縦、中之郷、末吉で形成される坂上地域と経済活動の中心地である大賀郷・三根で形成されている坂下地区に分かれている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース⑥)	
建物棟数		5,154棟 (うち木造3,808棟、非木造1,346棟)	
建物被害	全壊	24棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	0棟	
	(うち津波)	24棟	
	半壊	35棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	14人	23人
	(うち津波)※1	14人	23人
	負傷者	4人	7人
	(うち重傷者)	1人	2人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・最大震度が4程度であることから上水道の被害はほとんど生じない。			
・下水処理場はないが、合併浄化槽の一部で被害が生じること等により水洗トイレが使用できなくなる住宅や施設等が生じる可能性がある。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・八丈島発電所(地熱、風力、内燃力(ディーゼル))は津波浸水域に含まれておらず、最大震度は4程度であることから運転停止となる可能性は低い。			
・津波浸水するエリアに電柱(電線)等を含む送配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力(ディーゼル)発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、供給力が低下する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内はLPガス(プロパン)での供給であること、最大震度が4程度であることからLPガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することによりLPガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			

[通信]

- ・津波による海底通信ケーブルの切断で通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。
- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・ごみ処理施設、し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]八重根港で最大約18mの津波浸水深となり、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。

- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

・八丈島空港は想定される津波浸水域には含まれず、最大震度は4程度であることから、被害は限定的であり、滑走路点検の後、離発着陸できる可能性が高いと想定される。

[道路]

- ・港付近や岩場近くの津波浸水した道路が通行困難となる。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。

[島内交通]

- ・燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、病院等の島内の主要施設では、浸水被害の可能性はほとんどない。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・地震動・液状化による建物被害はあまり見られないが、ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約570人、8月（夏）で1日当たり最大約1,770人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\*観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。

## (9) 青ヶ島 (青ヶ島村)

基本情報			
人口	201人 (平成22年国勢調査)	面積	5.98 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆東京の南方海上約360km、有人島では伊豆諸島の最南端に位置する島である。カルデラを有する典型的な複式火山の島で、外輪山の外側斜面は急峻な崖で海岸線に接している。島内の集落は、外輪山北側の比較的なだらかな丘陵地帯に形成されている。			

被害想定結果 (最大ケース)			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース①②⑥⑧)	
建物棟数		90棟 (うち木造52棟、非木造38棟)	
建物被害	全壊	0棟	
	(うち急傾斜地崩壊等)	0棟	
	(うち津波)	0棟	
	半壊	0棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	1人	0人
	(うち津波)※1	1人	0人
	負傷者	0人	0人
	(うち重傷者)	0人	0人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・津波浸水がなく最大震度が4程度であることから上下水道の被害はほとんど生じない。			
[電力]			
・青ヶ島発電所は津波浸水域に含まれておらず、最大震度は4程度であることから運転停止となる可能性は低い。			
・内燃力(ディーゼル)発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内はLPガス(プロパン)での供給であること、最大震度が4程度であることからLPガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することによりLPガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			
[通信]			
・津波による海底通信ケーブルの切断等で通信が途絶する可能性がある。震度4程度であることから島内の通信ケーブル(電話線等)の断線が起こる可能性は低い。			
・電話は輻輳によりつながりにくくなる可能性がある。			

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・青ヶ島港で最大約8m、大千代港で最大約9mの津波浸水深となり、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[空港等]

- ・青ヶ島ヘリポートは津波浸水の可能性はなく、最大震度は4程度であることから、被害はほとんど生じない。

[道路]

- ・港付近や岩場近くの津波浸水した道路が通行困難となる。また、津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。

[島内交通]

- ・燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・役場や避難所、診療所等の島内の主要施設を始め住宅を含むほとんどの建物は、標高200m以上に位置しており浸水被害の可能性はない。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害・人的被害は、ほとんど発生しないと想定される。
- ・ガラスの飛散や家具の転倒等により人的被害が生じる可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大数人程度、8月（夏）で1日当たり最大数人程度滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。

\*観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。

## (10) 父島（小笠原村）

基本情報			
人口	1,880 人（平成 22 年国勢調査）	面積	23.80 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆父島は東京の南方海上約 980km に位置し、小笠原諸島で最も大きな島である。島のほぼ中央の中央山から四方に山稜が走り、周囲はほとんど険しい崖となっている。島内の集落は北西部の二見湾沿いと扇浦周辺地域に形成されている。			

被害想定結果（最大ケース）			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース⑤)	
建物棟数		508 棟（うち木造 108 棟、非木造 400 棟）	
建物被害	全壊	211 棟	
	（うち急傾斜地崩壊等）	0 棟	
	（うち津波）	211 棟	
	半壊	53 棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	80 人	127 人
	（うち津波）※1	80 人	127 人
	負傷者	6 人	3 人
	（うち重傷者）	2 人	1 人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・扇浦浄水場では最大約 4m の津波浸水が生じ、建物及び設備の被害が生じて運転停止となる可能性がある。			
・最大震度が 1 程度であることから津波浸水エリア以外の上下水道の被害は生じない。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・父島発電所では最大約 6m の津波浸水が生じ、建物及び電気設備の被害が生じて運転停止となる可能性がある。			
・津波浸水するエリアに電柱（電線）等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力（ディーゼル）発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内は LP ガス（プロパン）での供給であること、最大震度が 1 程度であることから LP ガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することにより LP ガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			
[通信]			
・津波による海底通信ケーブルの切断により通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。			

- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

#### ●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・二見港・二見漁港で最大約 10m の津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[道路]

- ・津波により被災した場合、ほぼ全ての浸水した道路が通行困難となり、島内の南北が分断され、孤立する地域が発生する可能性がある。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。

[島内交通]

- ・車両の被災や燃料不足により車やバスが利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・小笠原村役場で最大約 4 m、小笠原支庁で最大約 2 m、海上保安署で約 6 m、海上自衛隊基地で約 1 m の津波浸水に見舞われる可能性がある。

#### ●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・観光客が 2 月（冬）で 1 日当たり最大約 260 人、8 月（夏）で 1 日当たり最大約 560 人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\* 観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を 0 人に低減できる可能性がある。

## (11) 母島（小笠原村）

基本情報			
人口	491人（平成22年国勢調査）	面積	20.21 km <sup>2</sup>
地形的特徴等 <sup>7)</sup>			
◆母島は東京の南方海上約1030kmに位置し、南北の長い島である。島のほぼ中央の乳房山から南北に山稜が走り、周囲はほとんど切り立った崖となっているが、南部は比較的平坦な丘陵となっている。島内の集落は、南西部の沖港を取り囲むように形成されている。			

被害想定結果（最大ケース）			
人的被害が最大となる 地震動・津波ケース		南海トラフ巨大地震 (地震動：東側ケース＋経験的手法、津波ケース⑤)	
建物棟数		132棟（うち木造60棟、非木造72棟）	
建物被害	全壊	37棟	
	（うち急傾斜地崩壊等）	0棟	
	（うち津波）	37棟	
	半壊	15棟	
シーン設定		冬・昼間	冬・深夜
人的被害	死者	20人	34人
	（うち津波）※1	20人	34人
	負傷者	0人	1人
	（うち重傷者）	0人	0人
定性的な被害様相			
●ライフライン施設被害			
[上下水道]			
・最大震度が1程度であることから津波浸水エリア以外の上下水道の被害は生じない。			
・津波浸水エリアでは、中長期にわたり上下水道が使用できなくなる可能性がある。			
[電力]			
・母島発電所は津波浸水域に含まれておらず、最大震度は1程度であることから運転停止となる可能性はほとんどない。			
・津波浸水するエリアに電柱（電線）等の配電設備がある場合は、これらの被害等が発生し、これに起因して停電となる可能性がある。			
・内燃力（ディーゼル）発電所が健全であったとしても、島外からの燃料供給が途絶え、一定期間停電する可能性がある。			
[ガス]			
・都市ガスの供給はなく島内はLPガス（プロパン）での供給であること、最大震度が1程度であることからLPガスボンベがあり各住戸のガス設備に損傷が生じない限りは使用可能である可能性が高い。			
・港湾施設が被災することによりLPガスの供給が途絶える可能性があり、ガスボンベを使い切った後は中長期にわたりガスが使用できなくなる可能性がある。			
[通信]			
・津波による海底通信ケーブルの切断により通信が途絶する可能性がある。また、島内の通信ケーブル（電話線等）も複数断線し、島内の通信・通話も困難となる可能性がある。			

- ・停電により、通信設備の機能が停止し通信が途絶する可能性がある。
- ・携帯電話は伝送路の多くを固定回線に依存しているため、電柱（電線）被害等により固定電話が利用困難なエリアでは音声通信もパケット通信も利用困難となる可能性がある。

[その他]

- ・し尿処理施設（合併浄化槽等）が被災し、処理が追いつかない状態が続く可能性がある。

●交通施設（港湾等）、主要施設等被害

[港湾・漁港]

- ・沖港で最大約 10m、母島漁港（東港）で最大約 11m、母島漁港（北港）で最大約 9m の津波に見舞われ、貨物の流失、引き波による座礁、船舶の転覆・沈没・破損、流失物による港湾施設の破損や航路障害、倉庫や荷役機械の損傷、アクセス交通の寸断、防波堤の被害等が発生し機能を停止する可能性がある。
- ・港湾施設の破損や航路障害により、中長期にわたり海運による生活物資の搬入や人の往来が途絶する可能性がある。

[道路]

- ・津波により被災した場合、ほぼ全ての浸水した道路が通行困難となる。
- ・津波浸水域で補修を必要とする被害が発生する可能性がある。

[島内交通]

- ・車両の被災や燃料不足により車が利用できず、中長期にわたり生活に支障をきたす可能性がある。

[主要施設]

- ・小笠原村役場母島支所で最大約 5m の津波浸水に見舞われる可能性がある。
- ・学校、避難所等では、村立母島小中学校が最大約 1m の津波浸水に見舞われる可能性がある。

●その他

[建物被害]

- ・建物被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される。

[人的被害]

- ・人的被害は、そのほとんどが津波によるものであると想定される（※1）。
- ・高齢者（災害時要援護者）の津波からの逃げ遅れや避難生活の困難等が顕在化する可能性がある。
- ・観光客が2月（冬）で1日当たり最大約 150人、8月（夏）で1日当たり最大約 120人滞在している。この中から、土地勘がないことによる津波からの逃げ遅れや帰宅困難問題、待機施設・物資の不足等の問題が発生する可能性がある。また観光客等の被災により、犠牲者が更に増える可能性がある。

\*観光客については、昼間は観光地周辺、夜間は宿泊地周辺ということが考えられるが、実際の滞在地点を推定することは困難である。

[産業への影響]

- ・港湾施設や漁船等の被害、航路障害等により、観光業や水産業等の産業に悪影響が及ぶ可能性がある。

※1 津波による人的被害は、迅速避難の徹底、避難方法によっては死者数を0人に低減できる可能性がある。